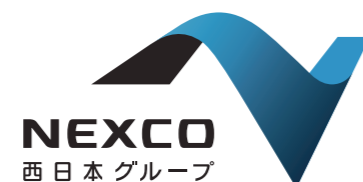


Communication Report 2019

NEXCO西日本グループ
 コミュニケーションレポート

要約版

みち、ひと…未来へ。



ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本

会社の英語表記「West **N**ippon **E**xpressway **C**ompany Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へーを表す「Next (次なる)」と、「Co (「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道を走ること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。



お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課
 TEL (06) 6344-4000 (代表) FAX (06) 6344-7183
 インターネットからのお問い合わせ：
 NEXCO西日本ウェブサイト (<https://www.w-nexco.co.jp>) から、[お問い合わせ] ページへアクセスできます。



[スローガン]

みち、ひと・・・未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結び、人と人、地域と地域。夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生み出します。NEXCO西日本は、100年先の未来に向け技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

[3つのめざす姿]

● 高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を

● 地域を愛し、地域とともに生きる

● たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ

目次

NEXCO西日本グループの使命…………… 1
 トップメッセージ …………… 3
 NEXCO西日本グループについて
 事業エリア・会社概要・グループ会社 …… 5
 NEXCO西日本グループのあゆみ… 7
 NEXCO西日本グループの事業 …… 9
 NEXCO西日本の成り立ちと
 高速道路事業のスキーム…………… 11
 中期経営計画2020 …………… 12
 コーポレート・ガバナンス …………… 13
 特集
 特集1 災害対応力の強化 ……………15
 特集2 高速道路の長期保全 ……………19
 特集3 高速道路ネットワークの
 機能強化……………21
 特集4 SA・PAでの
 お客さまサービス向上 ……25
 ステークホルダーとともに
 お客さま……………27
 社会 ……………31
 投資家・国民の皆さま……………35
 お取引先 ……………36
 グループ社員 ……………37
 より広い社会、未来への働きかけ
 環境保全 ……………39
 社会貢献 ……………41
 データ集
 CSRの重要課題と取り組み状況 ……43
 財務報告 ……………47
 第三者意見 ……………49
 編集方針・Q&A ……………50

使用する略称

本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社および関連会社を含めたグループ全体を表します。

また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

グループ理念

私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

グループ行動憲章 (抜粋)

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー(お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先)の信頼に応えます。

グループのCSR活動方針

事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSRは、本業(事業活動)を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することにより、社会の発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

ステークホルダーへの約束

私たちはCSRを推進させていくにあたっては、ステークホルダーとの対話を通じて当社グループへの期待を的確に把握し、事業活動のプロセスに組み込んでいくことを大切にしています。対話を通じて明らかになった社会的課題を、これまで培ったノウハウや資源を活かして解決していくことで、社会の持続的な発展に貢献していきます。

社会の持続的な発展
NEXCO西日本グループの成長



より広い社会、未来への働きかけ

経営を支える基本姿勢
(コンプライアンス・リスクマネジメント・情報セキュリティ)



これからも高速道路の安全・安心を最優先に 社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

はじめに

2018年度は、7月の豪雨、9月の台風21号等により、西日本各地において大規模な災害が発生し、人々の生活や企業活動に大きな影響が及びました。当社グループが管理する高速道路も大きな被害を受けましたが、関係機関や建設各社等からの多大なご協力と当社グループの総力を挙げた取り組みにより、早期に高速道路の復旧を成し遂げることができました。ご協力いただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

NEXCO西日本グループの使命と理念

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、当社グループは24時間365日、高速道路サービスを間断なく提供するとともに、高速道路の機能を維持発展させる使命

を担っています。

私たちは「リスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします」というグループ理念のもと、これらの使命の達成に向けて「中期経営計画2020」を進めています。

NEXCO西日本グループの取り組み

当社が管理する高速道路は約3,500kmを超え、その中には老朽化が進行している路線もあります。そのため、当社グループでは、高速道路ネットワークの機能を維持し将来の世代へ健全な社会資産として引き継ぐため、高速道路リニューアルプロジェクトや耐震補強対策を推進しています。

また、当社管内の各道路において、暫定2車線区間



の4車線化等を進めており、交通混雑解消や、自然災害・重大事故等の有事の際のリダンダンシー強化を図っています。2019年3月に全線4車線化が完了した高松自動車道においては、繁忙期における交通渋滞が解消される等の整備効果が現れています。新名神高速道路においては、高槻～大津間の未整備区間の建設や、すでに開通している大津～土山間において暫定4車線区間の6車線化を進めており、ネットワークを更に充実させる取り組みを行っています。

一方で、社員の健康と安全を守るための環境整備は経営者の責務と考え、社員の健康管理を強化し、働きやすい職場づくりを推進するなど、働き方改革にも取り組んでいます。

CSRへの社会の動きと対応

高速道路という社会インフラの機能をさらに高め、社会の持続的な発展に寄与することが当社グループの社会的責任（CSR）であると考えています。そして私たちは、事業活動を通じて、国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献していきます。

おわりに

あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社や取引先、従業員、沿道地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年7月

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

酒井和広

社員の豊かな生活の実現のために 働き方改革に取り組んでいます。

2019年4月に長時間労働の是正や柔軟な働き方の実現などをめざした、働き方改革関連法が施行されました。当社においても、「社員の働きがい・やりがい」「ワークライフバランス」「生産性向上」の観点から各種制度を創設し、社員の豊かな生活の実現をめざしています。

(1) 社員の健康確保（長時間労働の抑制）

1日の所定労働時間を短縮するとともに、時間外労働時間の上限時間の引き下げを行い、社員の更なる健康確保に努めています。

(2) 休みやすい企業風土の醸成

法律で取得が義務付けられた年次有給休暇5日に加え、「ワークライフバランス休暇制度（笑休）」を創設し、休みやすい企業風土の醸成をめざします。

(3) 自律的な働き方の支援

「効率的な業務執行」「社員の健康の維持増進」等のための時差出勤制度を導入するとともに、育児・介護と仕事の両立支援制度を拡充することで、社員がキャリアを

途切れさせることなく長期に活躍できる環境を整えています。

また、事業の計画的な執行と働き方改革の推進を両立して実現するため、3つの視点に基づき生産性向上をめざします。

(1) 業務の省力化

ICT(情報通信技術)やRPA(ロボットによる業務自動化の取り組み)を活用し、業務の省力化を進めています。

(2) 業務の選択と集中

アウトソーシングを活用し、コアとなる業務に社員が専念できるように業務の選択と集中を進めています。

(3) 成果の最大化

社員のキャリアに応じた各種研修を段階的・継続的に実施することにより、社員一人ひとりのスキル向上に取り組み、成果の最大化をめざします。

事業エリア (24府県)

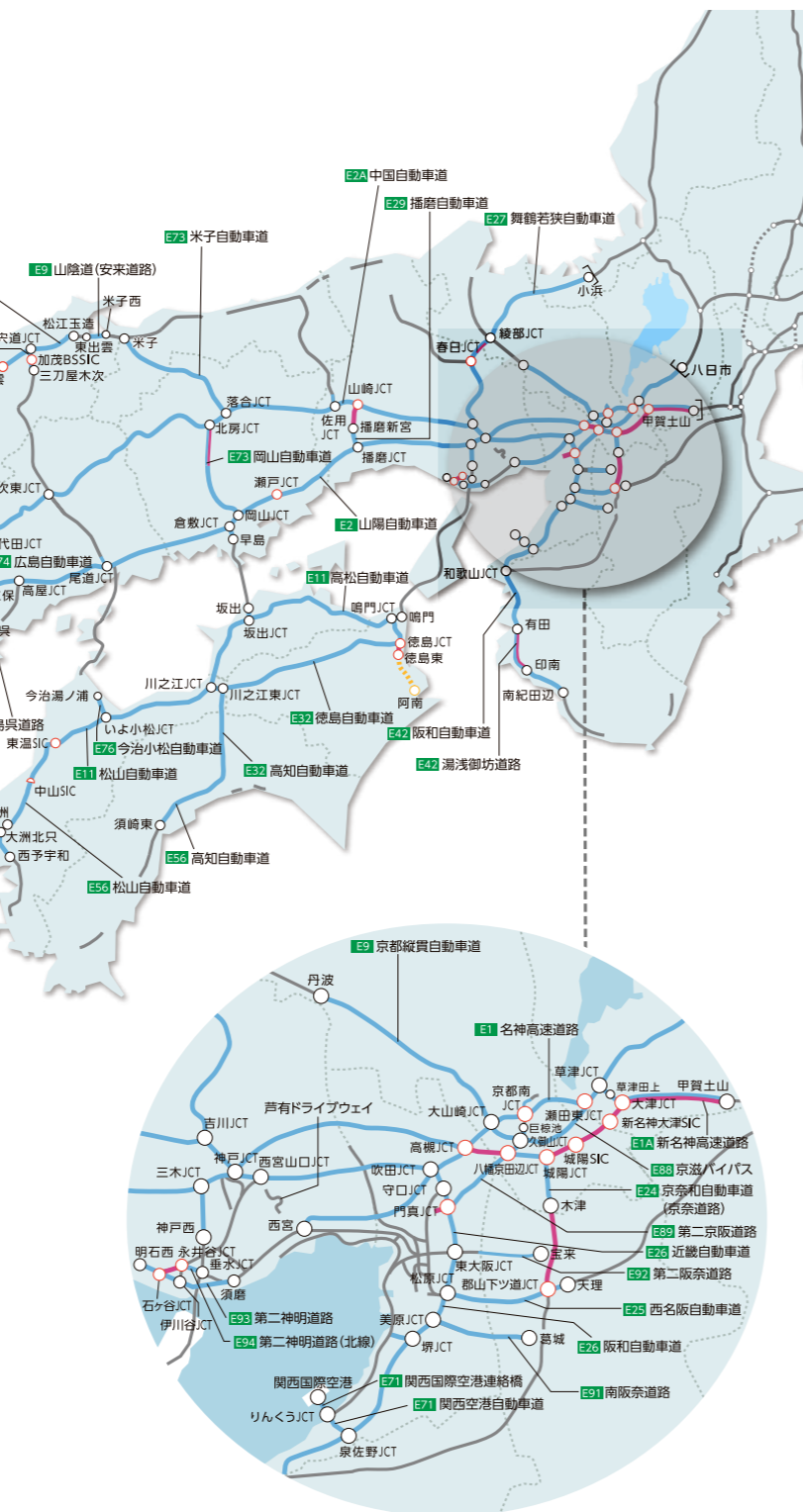
高速道路事業

営業中道路 3,533km
 IC 数 IC 462カ所 うち、スマートIC 32カ所
 利用台数 295万台/日 (2018年度実績)
 営業収入 7,826億円 (2018年度実績)
 建設中道路 (NEXCO西日本が整備する区間) 72km
 建設中道路 (新直轄方式で整備する区間) 72km

SA・PA事業

サービスエリア 100 (94)カ所
 パーキングエリア 208 (92)カ所
 売上高 1,626億円 (2018年度実績)

※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数
 ※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数



(2019年7月現在)

〈凡例〉高速道路

- 営業中道路
- 事業中道路^{注1}
- 事業中道路^{注1} (新直轄方式^{注2}で整備する区間)
- 他の自動車専用道路など

注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
 注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式

※標記上の略称
 JCT：ジャンクション
 SA：サービスエリア
 PA：パーキングエリア
 SIC：スマートインターチェンジ

会社概要 (2019年7月現在)

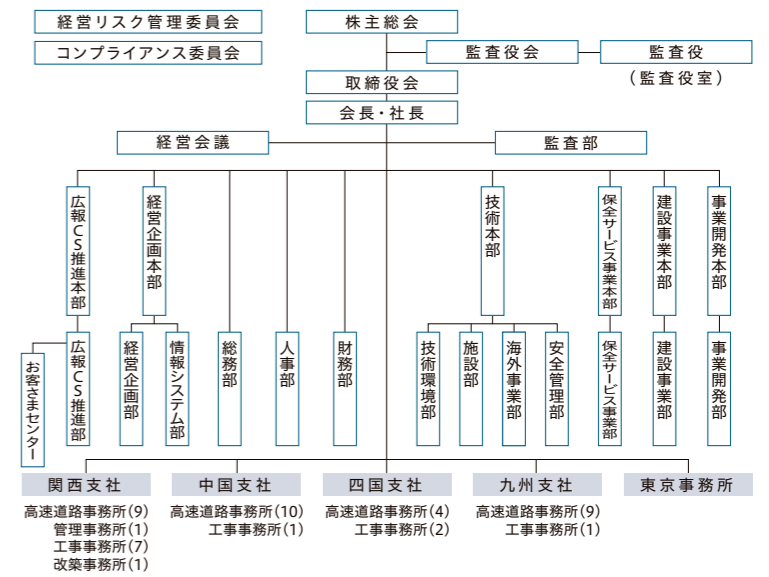
商号 西日本高速道路株式会社
 (West Nippon Expressway Company Limited)
 代表者 代表取締役社長 酒井 和広
 本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号
 資本金 475億円
 設立年月日 2005年10月1日
 従業員数[※] (単体) 2,476人 (連結) 15,301人
[※] 2019年3月末現在

グループ会社 (2019年7月現在)

連結子会社 27社

- **料金収受**
 西日本高速道路サービス関西株式会社
 西日本高速道路サービス中国株式会社
 西日本高速道路サービス四国株式会社
 (※ 交通管理も実施)
 西日本高速道路サービス九州株式会社
 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
 (※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)
- **交通管理**
 西日本高速道路パトロール関西株式会社
 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 西日本高速道路パトロール九州株式会社
- **点検・管理**
 西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
 (※ 保全作業も実施)
 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
 (※ 保全作業も実施)
- **保全作業**
 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
- **不動産関連業務および人材派遣業務**
 西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- **SA・PAの運営・管理**
 西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 西日本高速道路ロジスティクス株式会社
 西日本高速道路リテール株式会社
- **有料道路の運営・管理**
 芦有ドライブウェイ株式会社
- **海外事業**
 NEXCO-West USA, Inc.
- **ウルトラファインパブル関連事業**
 株式会社Ligarc
- **橋梁補修技術の開発および工事・コンサルタント・調査等事業**
 株式会社富士技建
 NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社
 株式会社フジエンジニアリング
- **広告事業**
 NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社
- **持分法適用の子会社 1社**
 ■ SA・PAの運営・管理
 沖縄道路サービス株式会社

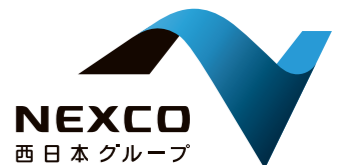
組織図 (NEXCO西日本、2019年7月現在)



関連会社 6社

- **システムの開発・改良および運用管理**
 株式会社NEXCOシステムズ
- **研究および技術開発**
 株式会社高速道路総合技術研究所
- **料金収受機械保守**
 ハイウェイ・トール・システム株式会社
- **保険代理店業務**
 株式会社NEXCO保険サービス
- **トラックターミナルの運営**
 九州高速道路ターミナル株式会社
- **海外事業**
 日本高速道路インターナショナル株式会社

みち、ひと…未来へ。



NEXCO 西日本グループのあゆみ

1956～2004

- **1956**
日本道路公団発足
- **1963**
日本初の高速道路
名神高速道路(栗東IC～尼崎IC間) 開通
- **1965**
名神高速道路 全線開通
- **1970**
日本万博博覧会開会
- **1980**
磁気カード式通行券の実用化
- **1983**
中国自動車道 全線開通
ハイウェイラジオ放送開始
- **1991**
ロゴマーク(CI)の導入
- **1992**
高松自動車道・松山自動車道・高知自動車道が直結
- **1995**
阪神・淡路大震災発生
高速道路にも甚大な被害
- **1997**
九州自動車道 全線開通
- **1997**
山陽自動車道 全線開通
- **2001**
ETCの運用開始
- **2004**
スマートインターチェンジの導入開始

2005～2010

- **2005**
10月：道路関係四公団の民営化
西日本高速道路株式会社設立
- **2006**
12月：グループ会社の設立(以降、順次設立)
- **2006**
4月：ブランドネーム、ロゴマーク決定
- **2007**
11月：阪和自動車道 全線開通
- **2008**
2月：新名神高速道路
(亀山JCT～草津田上IC)開通
- **2008**
11月：ハイウェイ交通情報提供
『i Highway』サービス開始
- **2009**
3月：休日高速道路料金
上限1,000円、平日3割引等
利便増進割引の試行
- **2010**
3月：第二京阪道路 全線開通
- **2010**
6月：高速道路無料化
社会実験の開始(2011.6まで)

2011～2015

- **2011**
1月：海外点検業務等への参入を開始
3月：東日本大震災発生
- **2012**
11月：大分自動車道 山田SA下り線が
「エコエリア山田」としてリニューアルオープン
太陽熱・排熱活用など環境新技術を導入
- **2013**
4月：京都縦貫自動車道
(沓掛IC～大山崎JCT間)開通
- **2014**
1月：高速道路リニューアルプロジェクト 発表
- **2015**
3月：徳島自動車道
(鳴門JCT～徳島IC間)開通
高松自動車道と徳島自動車道が
ダブルネットワーク化
- **2015**
6月：茨木技術研修センター「I-TR(アイトレ)」
開設

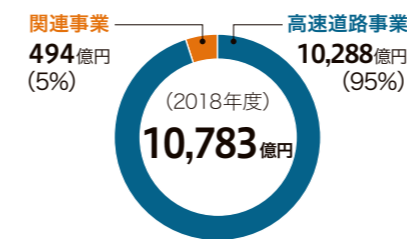
2016～2020

- **2016**
4月：熊本地震発生
- **2016**
4月：新名神高速道路有馬川橋
橋桁落下事故 発生
- **2016**
東九州自動車道
(椎田南IC～豊前IC)開通
北九州市から宮崎市が直結
- **2017**
6月：近畿圏の新たな高速道路料金の開始
(対距離制への移行)
- **2018**
3月：新名神高速道路
(高槻JCT・IC～神戸JCT)が全て開通
宝塚北SAオープン
- **2018**
11月：大阪・関西万博
誘致決定

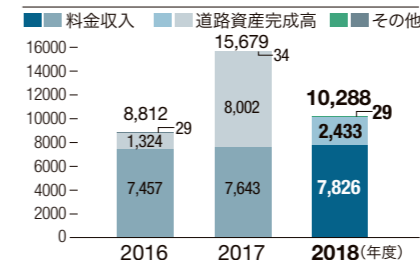
NEXCO 西日本グループの事業

NEXCO 西日本グループでは、「高速道路の建設」と「安全かつ効率的な運営管理」を行う高速道路事業、お客さま満足度の向上をめざすSA・PAの運営管理等を行う関連事業を実施しています。

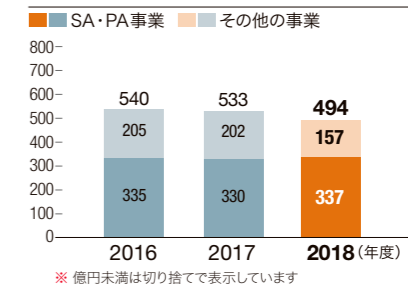
営業収益の事業別内訳※



高速道路事業の営業収益 (単位: 億円)※



関連事業の営業収益 (単位: 億円)※



※ 億円未満は切り捨てて表示しています

建設事業

地域の発展と、地域の暮らしや利便性向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークの整備や、6車線化及び4車線化事業などの既存ネットワークの機能向上を推進しています。



建設中の新名神高速道路 宇治田原第一高架橋



完成式 長崎自動車道 長崎芒塚IC～長崎多良見IC

保全サービス事業

お客さまにいつでも安全・快適に高速道路をご利用いただけるよう、路面や構造物の点検、清掃、補修などの維持管理をはじめ、24時間体制で道路巡回、交通情報の提供、料金収受などを行っています。

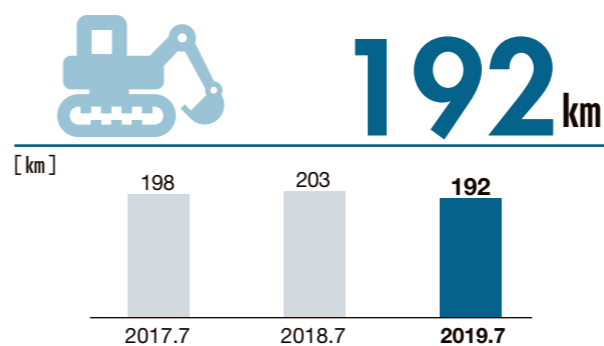


構造物の点検

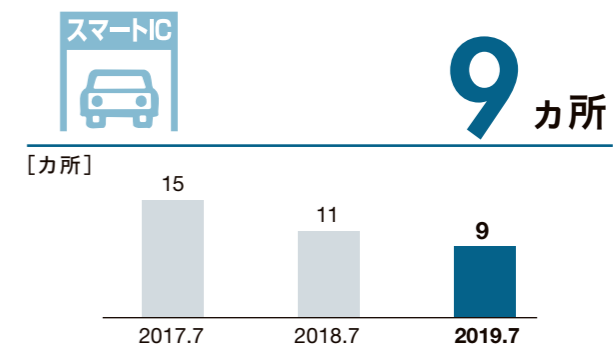


道路巡回

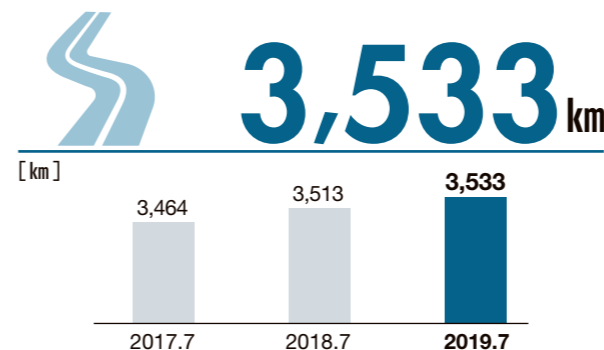
建設延長 (6車線化及び4車線化 120km) 新設 72km



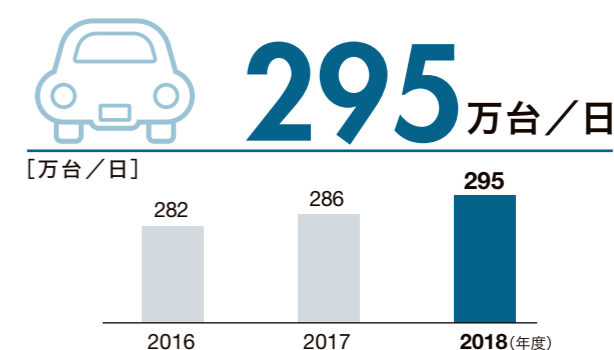
スマートIC事業中箇所



営業延長



高速道路利用台数



SA・PA事業

SA・PAにおいて、くつろぎ、楽しさ、賑わいを実感していただける空間の創出のほか、地域と連携した取り組みを実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たなサービスを提供しています。

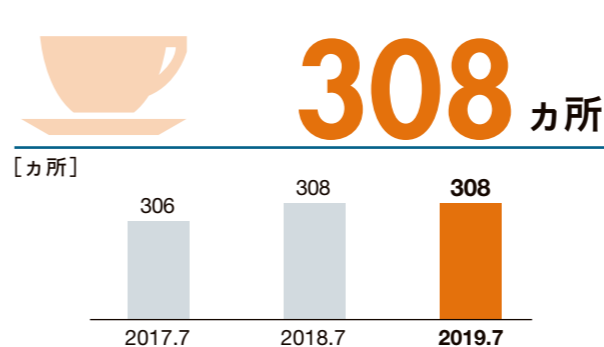


新名神高速道路 宝塚北SA外観

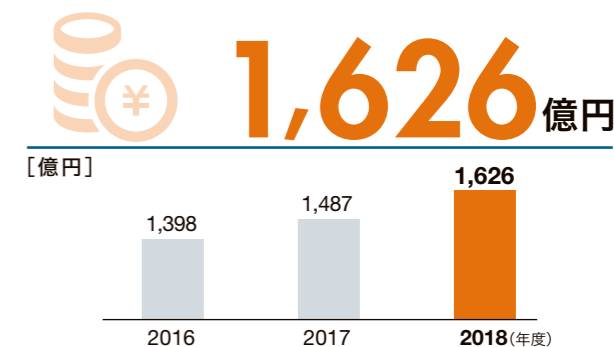


SAでのイベント開催状況

SA・PAの数



SA・PA売上高



高速道路事業

関連事業

NEXCO 西日本

特集

ステークホルダーとともに

より広い社会、未来への働きかけ

データ集

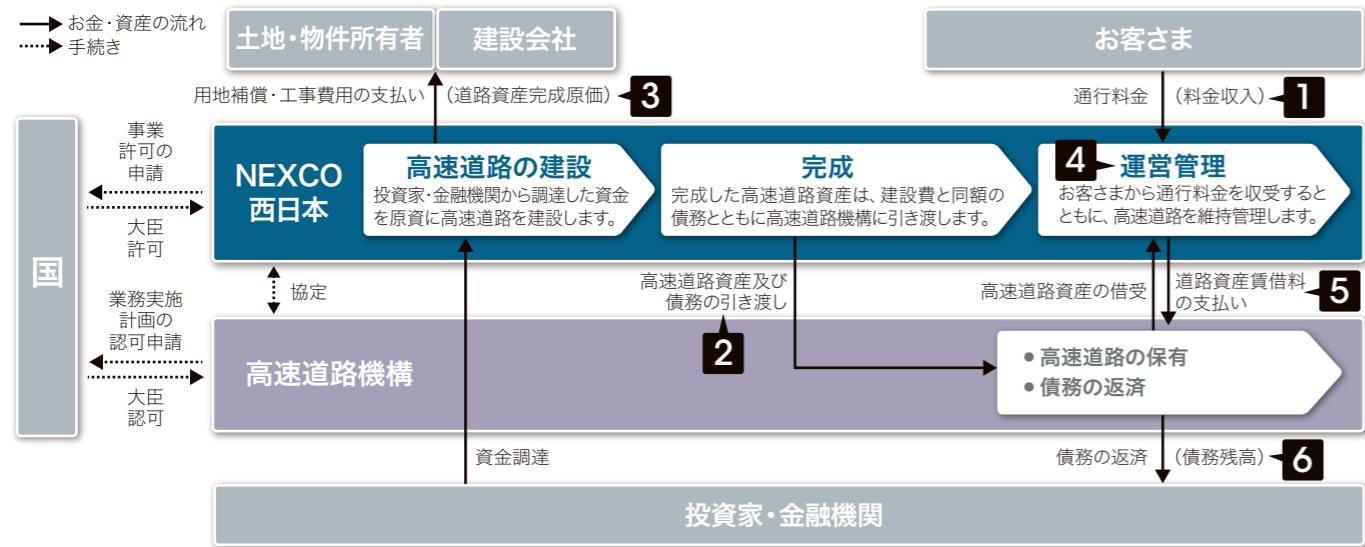
NEXCO西日本の成り立ちと高速道路事業のスキーム

NEXCO西日本の成り立ち

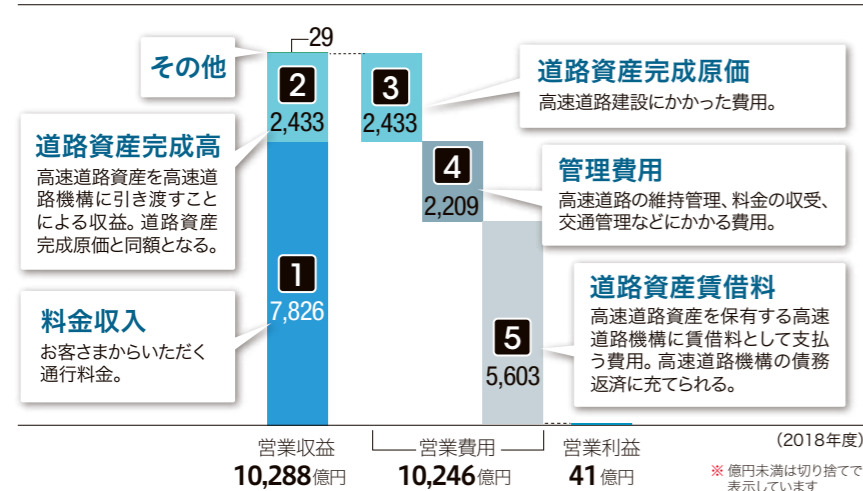
当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。高速道路資産とその債務は高速道路機構が保有し、高速道路会社各社は、高速道路機構から資産を借り受け、運営管理を担っています。



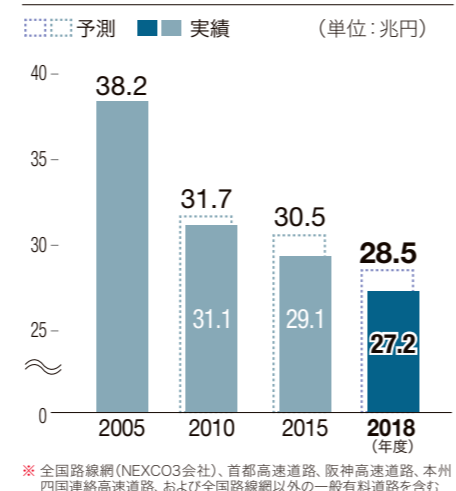
高速道路事業のスキーム



高速道路事業の損益※(12345)



高速道路機構の債務残高※(6)



中期経営計画 2020

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、NEXCO西日本グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを中断なく提供する使命を担っています。

当社グループはこの使命を全うするため、当社グループ理念(1ページ参照)のもと、2016年度からの5カ年の中期経営計画2020を推進していきます。

策定の背景

経営環境の変化



基本的な考え方

安全・安心

- 社員一人ひとりがリスク感度を高め、高速道路における「安全・安心」という基本のサービスを最優先に、高い品質でお客さまにお届けします。
- 重要な社会基盤である高速道路ネットワークを強化し、健全な状態で次世代へと継承します。
- 24時間365日高速道路の機能を保持するとともに、異常気象や災害・事故に対しても迅速に対応し、中断ない交通の確保に向けた防災対応力を高めます。

信頼

- NEXCO西日本グループは、社員一人ひとりがコンプライアンスを重視し、社会から信頼され必要とされる組織となるように努めます。
- 地域の魅力や特性と高速道路ネットワーク機能との相乗効果により高速道路の価値最大化をめざすとともに、地域から期待される事業を展開します。

成長

- 高速道路ネットワークの価値を最大化する取り組みを継続し、地域とともに100年先の未来まで持続的に成長していきます。
- 高速道路を取り巻く環境の変化に適切に対応し、グループ体となって進化し続けます。

主な重点施策

① 100年後も安心して利用できる高速道路

高速道路リニューアルプロジェクトに着手

② 高速道路ネットワークの機能強化

新名神高速道路の建設

③ 工事の安全対策の徹底

工事中の重大事故の撲滅に向け、リスクマネジメントを推進



タンカー船衝突の様子

撤去作業の様子

復旧完了の様子

関空連絡橋の復旧

～「日常」を早急に取り戻すために～

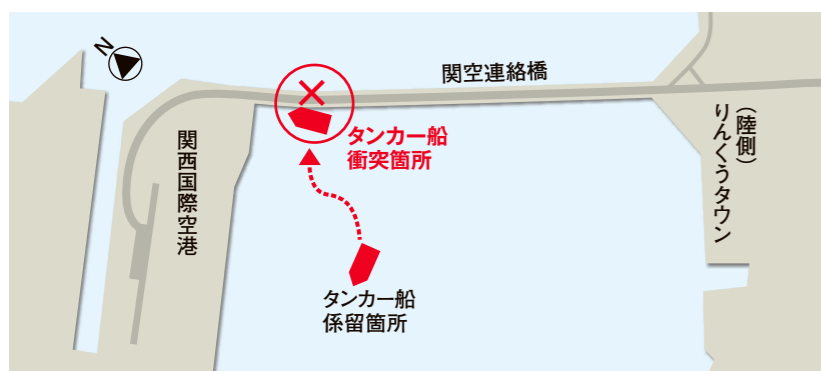
台風によるタンカー船衝突というかつてない事態。空港に取り残された人々を救出し、「日常」を取り戻すため、NEXCO西日本グループ、協力会社一丸となって復旧に取り組みました。

関空連絡橋全線復旧までの流れ



台風21号 ～災害対応の記録～

2018年9月4日、25年ぶりに非常に強い勢力で上陸した台風21号は、近畿地方を中心に甚大な被害をもたらしました。空の玄関口である関西国際空港では、高潮による浸水、停電が発生。さらに空港への唯一のアクセス道路である関空連絡橋にタンカー船が衝突したため、道路と鉄道が不通状態となり、空港にいた人々が取り残される事態となりました。



衝突による橋のずれの様子



シャトルバスによる救助の様子

■早期復旧の取り組み

当社は、人命救助の観点から一刻も早く取り残された人々を救出するため、損傷を受けなかった上り線を活用した片側交互通行による通行措置を9月5日0時40分から開始し、シャトルバス等により7,800人が関西国際空港外へ救出されました。その後、関西国際空港の営業再開に向けて上り線、下り線それぞれの車線を確保した通行とするため防護柵工事等を行い、7日5時10分に対面通行へ移行しました。空港の一部運航再開に間に合わせることで、空港へのアクセス機能を早期に確保しました。

■完全復旧までの取り組み

台風の影響によりタンカー船が関空連絡橋に衝突するというかつてない事態でしたが、関係機関、工事関係者等の協力により、当初見込みのゴールデンウィーク前から前倒しの4月8日に完全復旧し、日常を取り戻すことができました。



阪奈高速道路事務所 所長※
藤島 勝利

関西そして日本の玄関口のアクセスを担っていることに誇りをもって

昨年9月4日、台風21号による暴風の影響で発生した関空連絡橋へのタンカー船衝突は、私たちにとっても衝撃的な出来事でした。現場では、当日夜半から被災を免れた上り線を利用し、緊急車両の通行及び関空島に取り残された方々の救出バス誘導を開始。これと併行して、支社・本社をはじめ、グループ会社、復旧協力会社等多くの皆さまからご支援を頂き、翌日から対面通行による一般車の交通確保作業並びに損傷した下り線橋梁復旧作業に着手しました。

特に橋梁復旧に関しては、施工会社の迅速な対応により損傷桁の撤去・製作・架設まで円滑に進められ、また、各関係機関のご協力も得ながら、復旧作業に携わる関係者が連携し、一丸となって取り組んできたことで、4月8日に完全復旧を迎えることができました。今回の関空連絡橋復旧に携わって頂いた皆さまに厚くお礼申し上げます。

私たちは、これからも関西そして日本の玄関口（関西国際空港）のアクセスを担っていることに誇りをもって、サービスを提供してまいります。

※ 所属・役職は、2019年5月時点のものです。



土砂流入による盛土崩壊
／広島呉道路 (坂南IC～天応西IC)



至高松 (新宮IC)

至高知 (大豊IC)

土砂崩落による橋梁上部工流出
／高知道 (新宮IC～大豊IC)

平成30年7月豪雨 ～災害対応の記録～

西日本から東海地方を中心に観測史上1位の雨量記録を更新し、甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨。この豪雨により、これまでに経験のない広い範囲で当社管内の高速道路が通行止めとなりました。なかでも東西軸の重要幹線道路である中国自動車道・山陽自動車道等が重大な被害を受け、雨が止んだあとも災害による通行止めが継続しました。

高速道路の早期復旧をめざし、NEXCO西日本グループ一丸となって取り組みました。

■高速道路の主な被災箇所

当社が管理する高速道路において、今回の豪雨で広域的に多数の被害が発生し、そのうち通行止め解除に時間を要する重大な被災箇所は10ヵ所発生しました。この10ヵ所のうち7ヵ所が区域外から高速道路上に流木・土砂が流れ込んだ被害であり、特に山陽自動車道の本郷IC～河内IC間(5ヵ所)に集中しました。



流木・土砂等の流入/山陽道(河内IC～高屋JCT)



流木・土砂等の流入/山陽道(本郷IC～河内IC)



切土のり面崩落/九州道(新門司IC～小倉東IC)



切土のり面崩落/東九州道(椎田南IC～豊前IC)

■緊急車両等の通行確保に向けた取り組み

自治体からの災害派遣要請を受けた、自衛隊や警察・消防等の緊急車両の通行を確保しました。

併せて、特に被害の大きかった中国地方への緊急物資等輸送を支援するため、山陽自動車道の広島IC～河内IC間において、緊急物資等輸送車両の通行が可能となる措置を実施しました。

■関係機関との連携

・九州自動車道

福岡北九州高速道路公社と連携し、公社が管理する北九州高速道路の上り線を、九州自動車道上り線の代替とすることにより、本州と九州を連絡する交通軸を早急に確保しました。



応急復旧の様子

・広島呉道路

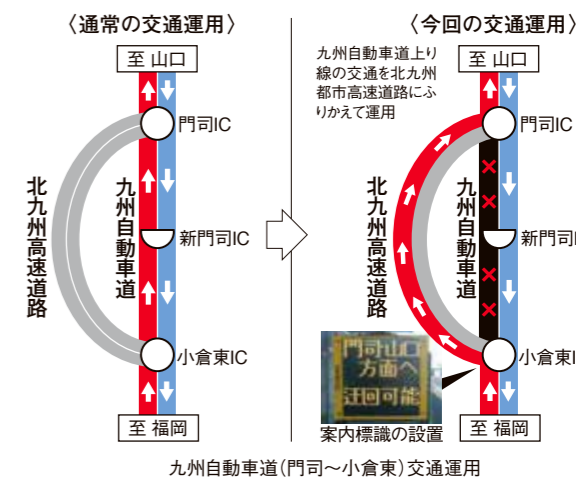
崩落土砂の撤去において、並行する国道31号線、JR呉線も被災したため、国土交通省中国地方整備局及びJR西日本と連携して効率的な復旧作業にあたりました。

国道31号線を仮設道路により早期に交通確保していただいたことで、広島呉道路やJR呉線の復旧作業スペースを確保でき、併せて関係機関との施工調整、昼夜連続での施工により、当初11月としていた復旧目標を9月下旬に早めることができました。

また、広島呉道路の通行止めによる呉市周辺へのアクセス低下への対応として、広域迂回ルートの料金調整や広島市と呉市を結ぶ都市間バスへの通行措置により、定時性の確保に努めました。



緊急物資等輸送車両通行の様子



復旧作業の様子



復旧完了の様子



広島県地域政策局 地域力創造課長
山田 和孝 様

災害時の広島～呉間の移動手段を連携して確保しました

広島県では、全域において交通インフラが甚大な被害を受け、中でもJR呉線・広島呉道路・国道31号が全て遮断された広島～呉間の交通確保が急務であったため、まず、JR呉線沿線において各種の対策を行いました。

NEXCO西日本グループには、広島呉道路通行止め区間における、全国初の災害時BRTの実施や国道31号の渋滞対策について、迅速かつ効果的な協力・連携をいただきました。

バスの運行を再開した当初は、広島～呉間の所要時間が3時間以上かかる便もありましたが、NEXCO西日本グループとの連携等の結果、所要時間が約75分と大幅に短縮され、1日に最大約3千人が利用されるなど、JR復旧までの県民の主な移動手段となりました。

今後も、災害時に迅速かつ効果的な対策が取れるよう、平時からNEXCO西日本グループをはじめとした関係機関との連携強化に取り組んでいきます。



床版取替工事の状況
九州自動車道 本名川橋

高速道路リニューアルプロジェクト

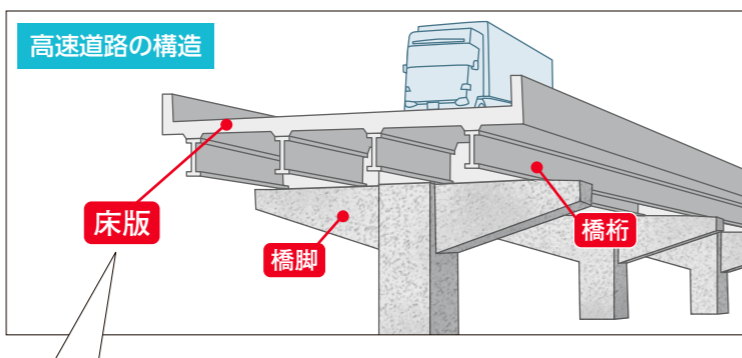


現在、NEXCO西日本が管理する高速道路は約3,500kmに達しており、その約4割が開通から30年を超え、老朽化が進んでいます。そのため当社では、道路ネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする、「高速道路リニューアルプロジェクト」を進めています。

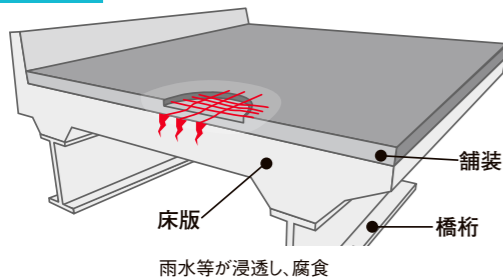
床版取替工事の目的

高速道路の橋梁について、年数経過に伴う老朽化や大型車交通量の増加、凍結防止剤の散布により、「床版」と呼ばれる構造物が劣化しています。

リニューアルプロジェクトでは、その床版を新しいものに取り替える工事を実施し、高速道路を健全に保っています。



床版の劣化



上面 舗装の損傷状況



下面 コンクリートの剥離



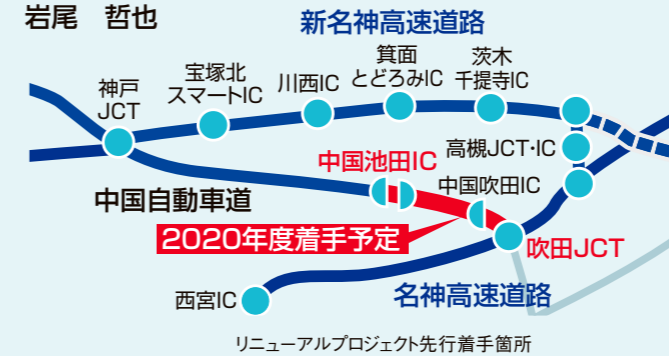
阪神改築事務所 所長
岩尾 哲也

関西の活力を支えて50年、まだまだ使命は続きます。だから今“高速道路リニューアルプロジェクト”

阪神改築事務所は、中国自動車道吹田JCT～神戸JCT間31.6kmのリニューアル工事を主に担当します。当区間は前回の大阪万博（EXPO'70）の頃整備され、開通後50年を迎えようとしています。都市内を通過するため連続高架橋形式が大半を占め、複数の鉄道施設や主要道路と交差・並行するとともに、沿線には住宅街等が近接しているため、工事による騒音、周辺道路の交通混雑等の社会的影響をいかに最小化していくかが重要課題となります。

特に、2020年度より先行着手する中国自動車道吹田JCT～中国池田IC間は、一定期間の終日通行止めによる工事を計画しています。交通管理者及び他の道路管理者と密に連携し、きめ細かな事前広報及び迂回路情報の提供を実施するとともに、新技術の導入による通行止め期間の短縮に努めてまいります。

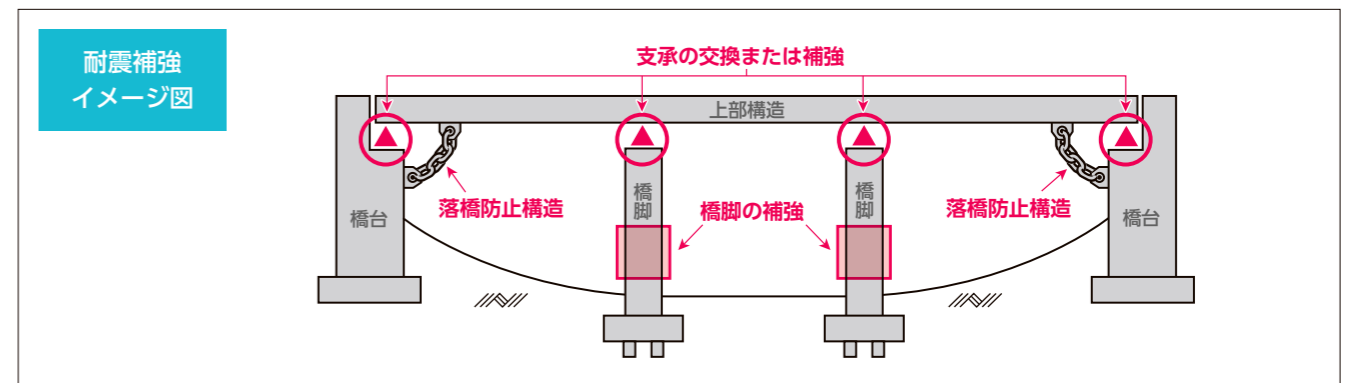
末永く安全・安心に高速道路をご利用いただくために、高速道路リニューアルプロジェクトにご理解とご協力をお願いいたします。



耐震補強対策の加速化

2016年4月に発生した熊本地震における橋梁の被災状況を踏まえ、お客さまに安心して高速道路をご利用いただけるよう、橋梁の耐震補強を進めています。

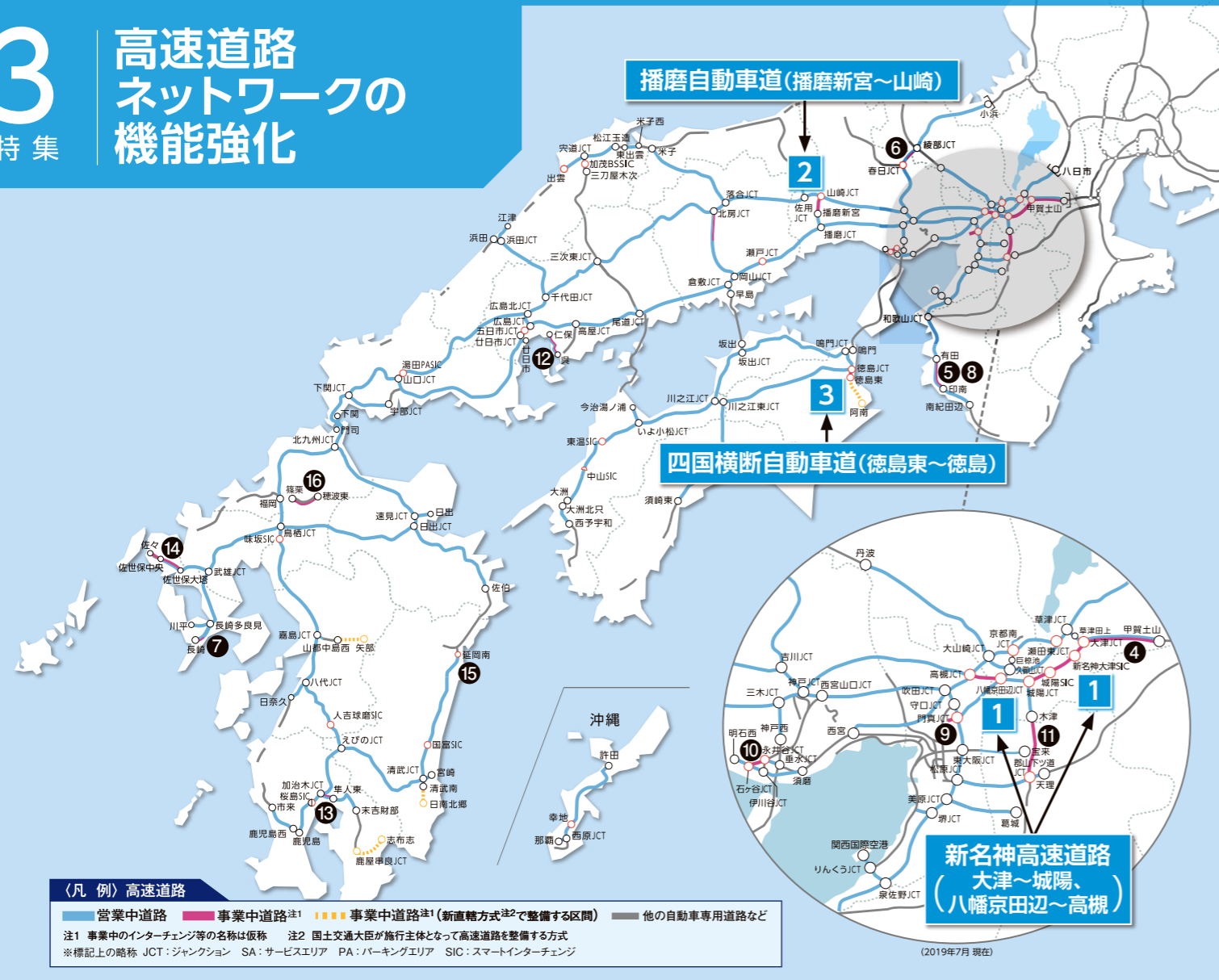
具体的には、落橋・倒壊の防止対策に加えて、路面に大きな段差が生じないように支承の補強等を行っています。



耐震補強前



耐震補強後



【凡 例】高速道路
 営業中道路 事業中道路注1 事業中道路注1(新直轄方式注2で整備する区間) 他の自動車専用道路など
 注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称 注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式
 ※標記上の略称 JCT:ジャンクション SA:サービスエリア PA:パーキングエリア SIC:スマートインターチェンジ

高速道路ネットワークの着実な整備

当社では、地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークを構築することを目的とし、新名神高速道路などを含む7道路72kmの区間の新設事業及び阪和自動車道など9道路120kmの区間の6車線化及び4車線化事業を行っています。

以下に代表的な3つの事業区間について紹介します。

1 新名神高速道路 (大津～城陽、八幡京田辺～高槻)

1963年の栗東IC～尼崎ICの開通以来、日本の産業と社会を支え続けてきた名神高速道路の多重化をめざし、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。現在大津JCT～城陽JCT・IC及び八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間は、用地取得及び工事に着手するなど地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。



淀川橋 工事の様子

2 播磨自動車道 (播磨新宮～山崎)

播磨新宮IC～山崎JCT間は、鳥取県と兵庫県、岡山県の南北の連携が強化されることに加え、中国自動車道と山陽自動車道の結びつきを強めることを目的とした延長約12kmの事業です。

現在、全線にわたり工事に着手しており、引き続き、地元の皆さまや関係行政との協議を進めながら、更に工事進捗を図っていきます。



中国自動車道と接続する山崎JCT工事の様子

3 四国横断自動車道 (徳島東～徳島)

徳島東IC～徳島JCT間は、高松道・徳島道および新直轄方式で整備されている阿南～徳島東IC間を結び延長約4kmの事業です。

この整備により、四国東部における広域ネットワークが構築されることで、地域間交流の強化、沿線道路の渋滞緩和、災害時の代替機能の強化などが期待されています。



吉野川大橋 工事の様子

TOPICS

吉野川渡河部の環境保全の取り組み

徳島東IC～徳島JCT間のうち、吉野川にかかる「吉野川渡河部」は、多種多様な希少生物が生息・生育し、渡り鳥のシギ・チドリ類が飛来する干潟があることから、環境保全の観点において重要な場所です。

このような自然豊かな「吉野川渡河部」の環境保全のため、専門家から必要な指導、助言を得るため検討会を設置し、環境保全に配慮しながら事業を進めています。



吉野川渡河部の様子

吉野川河口域で見られる希少生物の例
ハマシギ

4～16 その他主な事業中箇所

2019年度以降も新規区間の整備や4車線化等の改築事業を進めていくことで、広域的なネットワークの形成によるアクセスの向上や所要時間の短縮を実現し、観光誘客や地域産業の活性化、物流事業等の効率化、救急医療活動など社会サービスの効率化に貢献していきます。

主な事業中箇所		主な事業中箇所	
区間	延長	区間	延長
1 新名神高速道路 大津JCT～城陽JCT・IC	25km	10 第二神明道路 永井谷JCT～石ヶ谷JCT	7km
1 新名神高速道路 八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC	10km	11 大和北道路 木津IC～郡山下道JCT	12km
2 播磨自動車道 播磨新宮IC～山崎JCT	12km	12 広島呉道路 坂北IC～呉IC(4車線化)	13km
3 四国横断自動車道 徳島東IC～徳島JCT	4km	13 隼人道路 加治木JCT～隼人東IC(4車線化)	7km
4 新名神高速道路 甲賀土山IC～大津JCT(6車線化)	28km	14 佐世保道路 佐世保大塔IC～佐々IC(4車線化)※	17km
5 阪和自動車道 御坊IC～印南IC(4車線化)	10km	15 延岡南道路 延岡南IC	1km
6 舞鶴若狹自動車道 福知山IC～綾部IC(4車線化)	10km	16 八木山バイパス 篠栗IC～穂波東IC(4車線化)	13km
7 長崎自動車道 長崎IC～長崎芒塚IC(4車線化)	3km		
8 湯浅御坊道路 有田IC～御坊IC(4車線化)	19km		
9 淀川左岸線延伸部 門真JCT～門真西	1km		

(注) 事業中区間のIC・JCT名称は仮称
 ※ 佐世保中央IC～佐々IC(9km)については、佐世保道路4車線化完了時に国の管理から当社管理になります



4車線化完了前の状況／高松道(板野IC～引田IC)



4車線化完了後の状況／高松道(板野IC～引田IC)

更なるネットワーク強化の取り組み

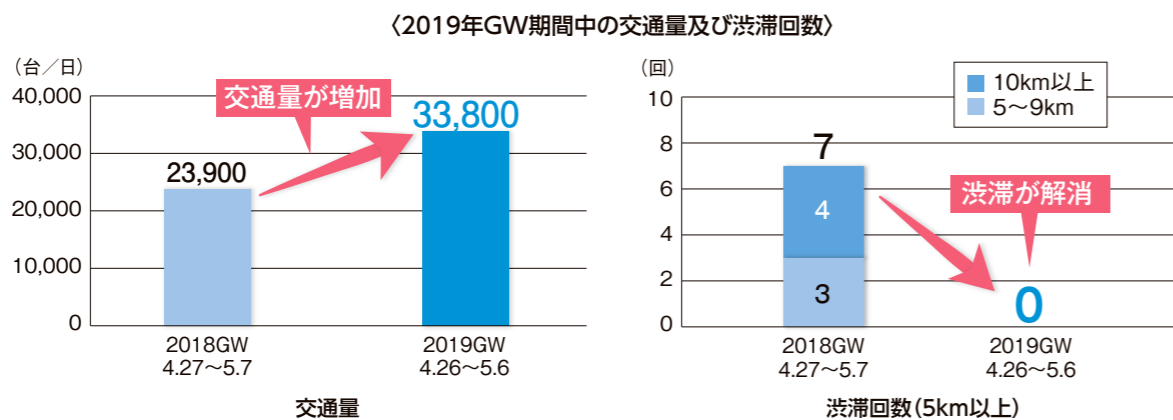
NEXCO西日本では、暫定2車線区間における交通渋滞の解消や安全性の更なる向上を目的とし、渋滞や事故が多く発生している区間から順次、4車線化を進めています。2018年度は、舞鶴若狭自動車道及び高松自動車道の2区間計56.5kmを4車線化し、既存ネットワークの強化に取り組んでいます。

■高松自動車道 4車線化工事の完了

高松自動車道は、2003年に全線が開通し、地域の発展と暮らしの向上に貢献してきました。その後、交通量が増加していく中で、暫定2車線区間において様々な課題が顕在化したため、2012年より4車線化工事に着手しました。そして2019年3月8日、工事が完了し、4車線での走行が可能となり、整備効果が現れています。

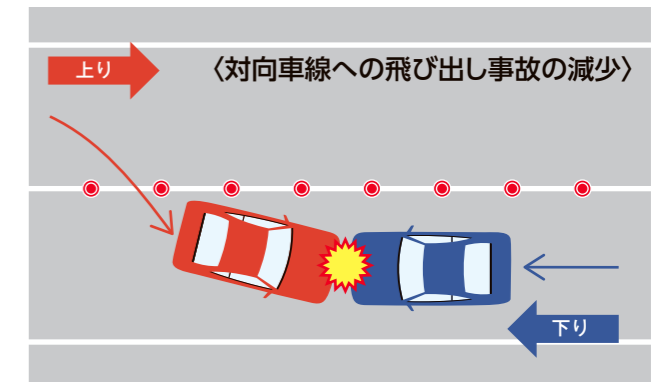
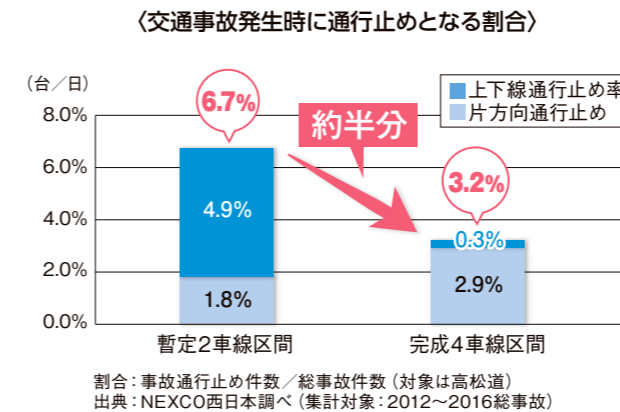
① 定時性の向上

2019年GWは10連休となりましたが、5km以上の渋滞はなく、定時性が向上しています。



② 安全性の更なる向上

中央分離帯が設置され、対向車線への飛び出し事故が防止されるとともに、渋滞が減少することにより、渋滞後尾での追突事故が減少することから、快適性や安全性が向上します。さらに、突発的な事象に起因する通行止めの減少が期待されます。



ジェイアール四国バス株式会社
新田 典寛 様

4車線化により、高松道がより便利になることに大いに期待しています

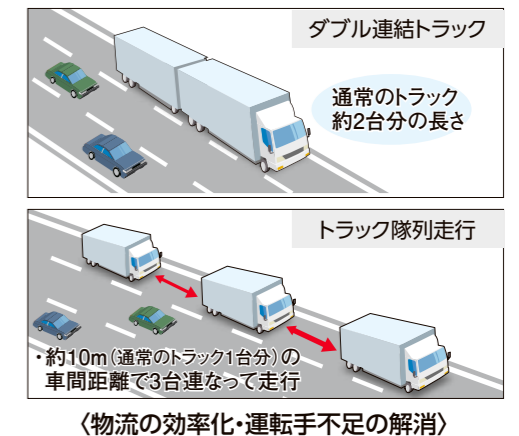
4車線化されることにより、危険が少なくなること、渋滞や工事による通行止めがなくなればと思っています。年に数回、工事による通行止めがあり、通行止め時には一般道へ迂回運行しており、約40分から1時間ほど遅れて運行していたため、それがなくなるとお客さまや乗務員の負担も少なくなると思います。所要時間が短くなることで四国と関西がもっと身近に感じられるようになり、四国の魅力をもっと知ってもらえたらうれしいです。

TOPICS

新規事業化について

2019年3月、国土交通大臣から新規事業許可を受け、既存ネットワークの強化を目的とした新たな事業に取り組んでいきます。

具体的には、重要インフラの緊急点検を踏まえ、暫定2車線区間の機能強化による防災及び減災対策のため、広島呉道路の4車線化等を推進していきます。また、ダブル連結トラックやトラック隊列走行の実現を見据えて、物流の効率化等に資する新名神高速道路の6車線化も併せて進めていきます。



〈物流の効率化・運転手不足の解消〉

高速道路のお客さまと地域の皆さまに愛されるSA・PAを目指して

NEXCO西日本では、快適な休息をご提供できるよう地域の特性を活かした店舗づくりや品揃え、清潔で快適なトイレや、駐車場の整備など、高速道路のお客さまと地域の皆さまにくつろぎ、楽しさ、にぎわいを実感していただける空間を提供します。



新名神高速道路 宝塚北SA

お出かけ前にSA・PAをもっと身近に

～インスタグラムでお得な情報を発信しています～

おすすめ商品やイベント情報などをいち早くお客さまにお伝えできるよう、公式アカウントを開発。新商品や季節のおすすめメニュー、地域物産展やイルミネーションなどの情報をご覧いただけます。

NEXCO西日本SA・PA
公式インスタグラム



新商品や新店舗がぞくぞく登場

ナショナルブランドからローカルブランド、一般市中でも話題や人気のお店を高速道路をご利用のお客さまにもより身近に楽しんでもいただける商業施設をめざしています。お客さまに新たな喜びをご提供できるよう心がけています。

九州自動車道 古賀SA(下り線) / 一蘭

高速道路初出店

名神高速道路 吹田SA(上り線) / TABLES

高速道路初出店

山陽自動車道 権現湖PA(下り線) / 松のや

宝塚北SA / どうとんぼり神座

宝塚北SA / 北極星監修のチキンオムライス

西名阪自動車道 香芝SA(下り線) / 天丼・天ぷら専門店「天丼てんや」

奈良県初

西日本の高速道路初出店

イベントで旅をさらに楽しく

阪和自動車道 岸和田SA(上下線)・紀ノ川SA(上下線) / 阪和道はパンダ道キャンペーン

和歌山県の人気観光施設「アドベンチャーワールド」とサービスエリアがコラボしました。

宝塚北SA / ハイウェイモーターショー

話題のクルマが集結し、見て、触れて、乗れる体験型イベントです。

徳島自動車道 上板SA(上下線) / 阿波踊り演舞

徳島の夏の風物詩を多くのお客さまに楽しんでいただきました。

山陽自動車道 吉備SA(上り線) / イルミネーション

点灯式では多くのお客さまにお立ち寄りいただきました。

キャッシュレスで便利、快適、そしてお得に

お買い物・お食事時のお支払いを快適に済ませていただけるよう、SA・PAではキャッシュレス化を推進しています。

～イオンNEXCO西日本カードを発行～

イオングループと提携してクレジットカードを2018年11月より発行しました。ETCカードで高速道路をご走行されると、イオンのときめきポイントが土日で通常の3倍(平日は通常の2倍)たまるなど、よりお得にご利用いただけます。



SA・PAの入会イベント



モバイルでの決済



～モバイル決済サービスの導入～

- WeChat Pay** :九州自動車道 古賀SA(上り線) 他11カ所 (2018年4月より順次)
- Alipay** :名神高速道路 草津PA(下り線) 他7カ所 (2017年1月より順次)
- LinePay** :大分自動車道 山田SA(下り線) 他5カ所 (2017年1月より順次)
- PayPay** :名神高速道路 草津PA(上下線) 他7カ所 (2018年12月より順次)

※2019年7月よりセブンイレブン店舗で「WeChat Pay」「Alipay」を導入予定

小さなお子さま連れでも安心してお買い物を

2021年までに、すべてのサービスエリアで24時間利用可能なベビーコーナーの設置、妊産婦の方も利用できる屋根付き優先駐車スペースの整備、ショッピングコーナーでのおむつの販売をめざします。

屋根付き優先駐車スペース



妊産婦の方もご利用いただけます。

おむつの販売



ショッピングコーナーにておむつを小単位で販売しています。

ベビーコーナー整備



オムツ替え台



お客さま

快適、安全、信頼、出会い、安らぎ等の新たな価値を提案し提供します。

交通安全の取り組み

交通安全の確保

2020年までに高速道路での逆走事故ゼロをめざしています

高速道路における逆走は、重大事故につながる非常に危険な行為です。

当社では、2020年までに逆走事故をゼロにすべく、料金所周辺の開口部の締め切り、一般道接続部の誤進入対策、さらには一般公募で寄せられた逆走防止技術の現地展開を進めています。併せて、ホームページやチラシ・ポスター等を活用し、逆走の危険性をお客さまに訴える広報活動を実施しています。



逆走対策の例



チラシによる広報活動

高速道路交通の管理

24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、交通管理隊が高速道路を巡回しています。

交通管理隊が収集・把握した渋滞の状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してお客さまに発信しています。

また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの快適なドライブをサポートしています。



落下物排除の状況

VOICE

隊員間の連携により、お客さまの安全と交通の確保に取り組んでいます

高速道路の巡回では2人1組で業務に臨みます。事故等の異常事象では、1人は「監視員」として、赤旗を用いた走行車両への注意喚起や、通行する車の動向監視を行います。

もう1人は「作業員」として、お客さま対応や異常事態への対応を行います。一瞬の間が事故を引き起こすこともあることから、2人の密接な連携は欠かせません。

作業時には車の動向に注視し、迅速かつ的確な処理に努めることで、お客さまと自らの安全や、円滑な交通の確保に取り組んでいます。



西日本高速道路/パトロール九州 (株) 鹿児島基地
副班長 前田 修身 隊員 田中 義樹

快適な高速道路空間の提供

交通渋滞の緩和

渋滞回避のための呼び掛けを行っています

ゴールデンウィーク・お盆・年末年始の交通混雑期に渋滞予測ガイドを製作し渋滞予測情報を公表するほか、「渋滞予測士」(渋滞予測を専門で行う社員)



渋滞予測士による予測情報の提供

がテレビ・ラジオ・新聞等に出演し、渋滞の傾向や渋滞回避のための分散利用について呼び掛けを行っています。



道路交通情報の発信

情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。

同センターの交通管制部門では、交通事故や渋滞、異常気象などの情報を集約して、情報板やカーナビなどを通じてリアルタイムにドライバーに発信し、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。



道路管制センター

お客さまサービスの向上

快適にご利用のため、おもてなしの心をもって対応します

料金所は、お客さまを笑顔でお迎えし、快適に高速道路をご利用いただけるようなサービスに努めています。

近年、ETCの普及、料金精算機の導入等に伴い、インターホンを通してお客さまと接する機会が増えています。そこで、勉強会やアナウンス研修等を行い、声によるご説明・ご案内においても「笑顔」を届けられるよう、これからも「NEXCO西日本の顔」として24時間365日体制で取り組んでまいります。



料金収受の様子



お客さま

魅力あふれるSA・PAづくり

店舗のリニューアル

九州自動車道 古賀サービスエリア(下り線)では初登場が目白押し！

店舗面積を1.5倍に拡充。「一蘭」と「ひよ子」の新サブレが初登場し、「タリーズコーヒー」も九州初登場。「焦がし(古賀市)タコ」をはじめ、ご当地商品も取り揃えており、年間161万人(レジ通過人数)のお客さまにご利用いただいております。

店舗前面(左下:オープニングイベントでの和太鼓演奏)



ショッピングコーナー
左上:「ひよ子」の新サブレ
右上:「小さなトマト大福」



「むなかた鶏の親子丼」



「一蘭」天然とんこつラーメン



「ゴマさば丼」

地域と連携した商品展開

地元の高校生が開発した洋菓子を販売しています

玉名女子高等学校の生徒が新商品を半年間かけて開発。九州自動車道玉名PA(上下線)で販売し、発売開始から半年で1万4千個が売れる人気商品となっています。



熊本県特産の不知火(しらぬい)を使用



サクサクとした食感が好評の「柑橘香る玉女フロランタン」



レシピを考案した3年5組 食物科の皆さま

高速道路周辺地域の人も楽しめる場所

高速道路に乗らなくても店舗にお越しいただけます

73カ所のSA・PAにウェルカムゲートを設置。一般道からもアクセス可能。近隣のお客さまにもお買い物やお食事だけでなく、イベントでもお楽しみいただいております。



新名神高速道路宝塚北SA ウェルカムゲート



親子向け工作体験(徳島自動車道上板SA下り線)



パンづくり教室(山陽自動車道小谷SA上り線)

季節や地域ごとに企画を行っています

2019年3月にオープンから1周年を迎えた宝塚北SAでは、8日間にわたり、地元ゆかりの手塚治虫先生や宝塚歌劇にちなんだ企画を実施しました。他のSA・PAでも、夏のスイカ割りや正月の餅まきなど季節ごとのイベントを行っておりますので、楽しく賑やかなひとときをお過ごしください。



「リボンの騎士」サファイア姫の王冠の展示(新名神高速道路宝塚北SA)



スイカ割り大会(宮崎自動車道霧島SA上下線)



ウインターイルミネーション(山陽自動車道三木SA上り線)



新春餅まき大会(山陽自動車道下松SA下り線)



ハロウィンイベント(山陽自動車道小谷SA上り線)

旅に役立つ情報提供

海外のお客さまも安心です

安心して高速道路をご利用いただけるよう、翻訳サービス等環境整備に努めています。

エリア近隣地域の情報も入手できます

観光スポットやイベントなど旅行の際に役立つ情報も提供しています。

ネット環境の充実

西日本の有人SA・PA計196カ所にWi-Fi サービス「W-NEXCO Free Wi-Fi」を整備しています。

本サービスは、利用時間や回数に制限なくご利用いただけます。



多言語翻訳機を導入(20カ所)



「W-NEXCO Free Wi-Fi」のサービスマーク



スタッフ手作りのうどん店紹介マップ(高松自動車道豊浜SA上下線)



社会

- 共生社会の一員として、地域と積極的に連携します。
- 環境を重視して自然との共生を図ります。

社会基盤である高速道路の整備と長期保全

高速道路ネットワークの整備と機能向上

2018年度は4カ所のスマートICを新たに整備しました

高速道路の利便性を向上させるため、スマートICの整備を進めています。スマートICでは、ETC車載器搭載車は一般道路からのアクセス経路が増え、高速道路がさらに利用しやすくなります。

2018年度は和歌山南(阪和道)、別府湾SA【上り線】(東九州道)、北熊本(九州道)、桜島SA【鹿児島方面】(九州道)で新たにスマートICが開通し、計33カ所となりました。現在、さらに9カ所の整備に着手しています。



和歌山南スマートIC開通式の様子



北熊本スマートIC開通式の様子



桜島スマートIC

近畿圏の有料道路を一元的に管理し、料金も分かりやすくなりました

近畿圏の地方道路公社等が管理していた南阪奈有料道路、堺泉北有料道路、第二阪奈有料道路、阪神高速道路京都線(油小路線・斜久世橋)について、合理的・効率的な管理を行う観点から、NEXCO西日本が移管を受けて一元的に管理を行っております。料金水準も整理・統一され、お客さまに分かりやすくご利用いただけるようになりました。

また、NEXCO西日本が管理する第二神明道路についても、走行した距離に応じた対距離制を基本とする新たな料金に移行しました。

※阪神高速道路京都線(新十条通)は、京都市管理となり、無料で通行できるようになりました。

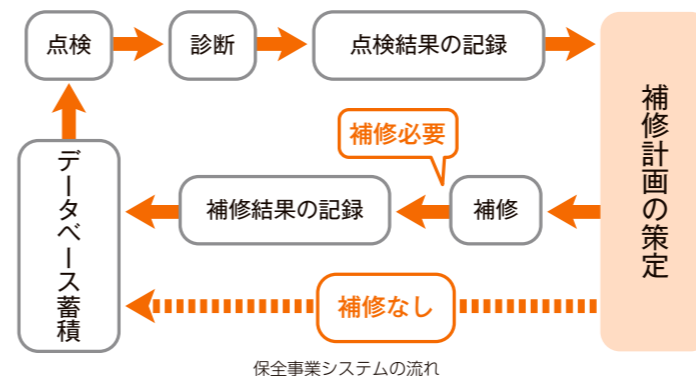


高速道路インフラの健全性の確保

保全事業システムの高度化、効率化を進めています

老朽化が進む高速道路を将来にわたって健全な状態に保つためには、構造物の状態をより正確にかつ迅速に把握・診断し、いつどのような対策を実施するのか、または監視を行っていくのかなど適切な維持補修計画を策定することが重要となります。

当社では一連の業務手順やルールを明確にして、そのサイクルが途絶えることなく継続される保全事業システムの推進に努めています。



保全事業システムの流れ

また、膨大な高速道路資産を確実に点検し正確に健全性を把握するため、高解像度カメラ、赤外線カメラなどの点検支援技術の活用やタブレット端末を使った点検の記録、AIによる健全性診断の支援など点検の高度化、効率化の推進に取り組んでいます。



高解像度カメラ(Auto CIMA)



タブレットでの点検記録



赤外線カメラ(Jシステム)

重量超過等の違反車両の取り締まりを徹底しています

重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっており、重量超過等の法令違反車両に対しては、IC入り口や本線料金所を中心に、指導・取り締まりを行っています。また、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発も行っています。



取り締まりの様子

災害対応力の強化

災害に強い組織・連携ネットワークの構築

大雪時の社会的影響の最小化をめざします

大雪時には、大規模な滞留車両の抑制と通行止め時間の最小化を図るため、除雪体制の強化や集中除雪、大雪時の需要抑制の事前広報等の取り組みを推進します。

また、大雪特別警報等異例の降雪時には、一部区間でチェーン規制を実施する可能性があります。

都道府県	道路名	大雪時にチェーン規制を実施する可能性のある区間
岡山県・鳥取県	米子道	湯原IC~江府IC 34km
広島県・島根県	浜田道	大朝IC~旭IC 27km



米子道 車両滞留状況

保有している技術・ノウハウの社会への展開

高速道路技術の他事業への展開

新幹線用トンネル検査システムを共同開発しています

「eQドクターT」は、超高解像度のトンネル覆工面撮影技術、覆工面展開図の自動貼り合わせ技術、自動ひび割れ抽出技術により、覆工コンクリートの状況をより高精度に確認するためのトンネル覆工点検システムです。

最高速度100km/hで走行する車両からトンネル覆工を撮影し、撮影した画像から自動でひび割れを抽出してデジタル図面化して活用しています。

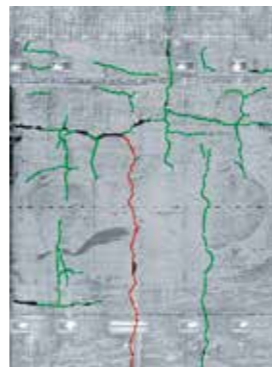
現在、西日本旅客鉄道(株)と「eQドクターT」の技術を活用して、新たな「新幹線用トンネル覆工面検査システム」の共同開発を進めています。今後も、このような高速道路以外の事業者と連携した取り組みを行い、広く社会に貢献していきます。



eQドクターT (道路トンネル覆工点検車)



撮影の状況 (赤外線照明による撮影を行うことで、お客さまの運転への影響はありません)



トンネル壁面画像の自動ひび割れ抽出状況

海外への事業展開

グループの強みを活かし、海外でも事業を展開しています

当社グループは、長年にわたる高速道路の建設・運営管理の経験によって、海外でも展開できる技術やノウハウを保有しています。

インドネシアでは、技術アドバイザーを現地へ派遣し、高速道路の建設や舗装補修の支援をしています。

また、アメリカでは、NEXCO-West USA, Inc.が非破壊検査技術を用いた点検業務を受注しており、2018年度はワシントン・メトロの地下鉄トンネル点検を実施し、高評価を受けました。

海外での事業展開を通じ、その経験を国内の道路事業にフィードバックすることをめざしています。



舗装損傷調査会議 (インドネシア)



地下鉄トンネル点検 (アメリカ)

高速道路を通じた地域連携

高速道路を通じた地域活性化

自治体と連携して、地域の観光振興に取り組んでいます

自治体や関係団体と連携した観光振興の取り組みの一つとして、ETC限定で周遊エリアの高速道路が定額で乗り放題となる「ドライブパス」を実施しています。

2018年度は、関西・中国・四国・九州各地域のドライブパスや、訪日外国人向けの企画等を含め、約26万件ご利用いただきました。

【2018年度の主なドライブパス】



京都・若狭路・びわ湖ぐるっとドライブパス 2018



ぶらり中国ドライブパス 2018



ドライブパスの申込専用サイト「みち旅」
<https://www.michitabi.com/>

自治体や関連団体と連携した観光振興

カードラリーで西日本各地へGO!

各府県が選ぶ「ごじまん」の観光地やサービスエリアに設置したカードを集めて応募すると、抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえる「お国じまんカードラリー」。2018年度は9,420名の方にご応募いただき、そのうち53名の方が全148スポットを制覇されました。

No 001 福井県立恐竜博物館



©写真提供/福井県立恐竜博物館



- キャンペーン期間
2019年4月13日(土)～2020年1月13日(月・祝)
- キャンペーンサイトはこちら
www.w-nexco.co.jp/drive_porter/driverally

No157 海洋博公園・沖縄美ら海水族館



国営沖縄記念公園(海洋博公園)・沖縄美ら海水族館



2019年度は、沖縄県と本州四国連絡高速道路(株)が新たに加わり、当社の高速道路がある全ての府県(24府県)が対象となり、全157ヵ所のごじまんスポットでカードを配布しています。

•ご当地産品 (イメージ)



〈滋賀県〉「近江牛」



〈兵庫県〉「香住がに甲羅盛り」



投資家・国民の皆さま

- 高速道路のネットワークバリューを創造し増大させます。
- 幅広い外部との交流により高速道路の未来の可能性を追求します。

公正、透明、健全な事業活動

透明性の高い経営の推進

外部評価により透明性の向上を図っています

当社では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。毎年1回開催し、当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。



事業評価監視委員会の様子

積極的な情報公開

ステークホルダーとの対話

毎月の社長定例会見で情報発信をしています

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。

また、投資家や金融機関の皆さまを対象に事業説明会を毎年開催し、経営層と直接対話いただく機会を設けています。



定例記者会見の様子

メディアを通じた情報発信

建設現場等をマスコミ向けに積極的に公開しています

2018年度は、新規開通スマートIC・高松自動車道4車線化・リニューアル工事現場のマスコミ向けプレスツアーを開催しました。

プレスツアーでは現場公開のほか、概要説明、スマートICにおいては利用方法・注意事項の説明、実車によるデモンストレーション走行を公開し、テレビ・新聞等を通じ、高速道路の安全・安心に向けた取り組みを積極的に情報発信しました。

また、広島呉道路・高知自動車道立川橋の被災現場や、関空連絡橋の復旧作業等の公開を行い、一日も早い復旧に向けた姿勢について地域の皆さま・利用者の方々のご理解を得るよう取り組みを行いました。



和歌山南スマートIC建設現場公開



関空連絡橋 橋桁架設マスコミ公開



広島呉道路現場公開



お取引先

- 互いを尊重し、透明で公正な関係を構築します。
- 相互に協力してお客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献します。

公正な取引関係

競争性・公正性・透明性の追求

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、競争性・公正性・透明性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取引を行っています。



契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保とさらなる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

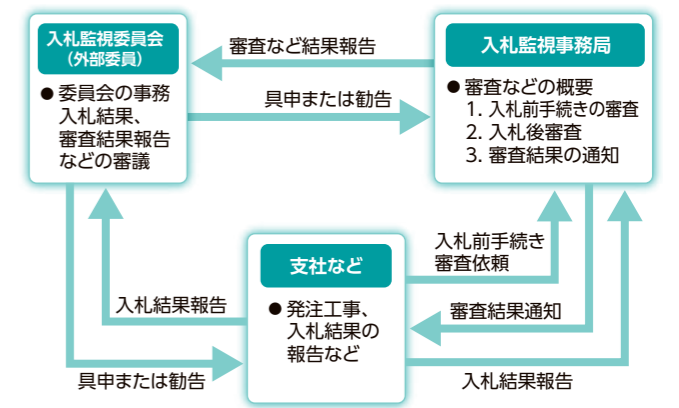
契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続きを行っています

契約手続きの透明性確保のため、工事・調査等の入札・契約情報をウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。

また、入札手続契約の過程及び結果について、各支社に弁護士、大学教授などの有識者からなる「入札監視委員会」を設置し定期的に審議を受け、ウェブサイト上で審議概要を公表しています。

発注事務に係る綱紀保持

発注者の綱紀保持に関する規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。この規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。またこの取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。



地域のメーカー・生産者のビジネスチャンスの拡大

地元企業とSA・PAテナントの橋渡し

ハイウェイ大商談会(ビジネスマッチング)を開催

- 2018年度は、金融機関や自治体と連携し3回開催しました。
- 6月:南九州地区の企業(75社)を対象に熊本市内で開催
- 2月:関西地区の企業(169社)を対象に大阪市内で開催
- 3月:兵庫県企業(70社)を対象に神戸市内で開催



南九州ハイウェイ大商談会の様子

《成約商品例(南九州ハイウェイ大商談会)》



【えのきチップス】販売中

旨味の濃い鹿児島県産ドライエのきをからりと揚げ、鹿児島県産のかま炊き海水塩をパリパリ。大人がハマる旨さです。



【黒亭ラーメン】

熊本ラーメンの老舗「黒亭ラーメン」。焦がしにんにく油と豚骨スープのこだわりラーメンを自宅でも楽しめます。山川PA上り線等で販売中



【れんこんチップス】

からし蓮根屋さん作ったれんこんチップス。パリパリの食感とれんこんの素朴な味わいが特徴です。北熊本SA上り線等で販売中



グループ社員

- 自己と会社の持つ潜在能力やモチベーションを発揮する機会を提供します。
- 高速道路の設計から保守に至る一貫した総合技術グループになります。

人材の育成

人材育成の考え方

グループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、実際の業務におけるOJTや階層別・専門分野別の幅広い研修を通じて、知識・能力を高め、社員の自律的な成長を支援するとともに、グループ会社間における人材交流も実施しながら、より実践力を備えた人材の育成に努めています。



階層別研修の様子

専門技術力を有する人材を継続的に育成します

茨木技術研修センター（I-TR）は改修工事を行い、2018年12月にリニューアルオープンしました。リニューアル工事により講義室を増設するとともに、研修教材として、これまでの約180体の供試体に加え、熊本地震被災物など新たに約70体の供試体を設置したり、工事安全の重要性を再認識する場として安全啓発コーナーを整備しました。



熊本地震被災部材を使った研修の様子

「現場力」を高め、プロフェッショナルへの成長を促す「体験型研修」を実施するため、新しいI-TRを活用していきます。

ダイバーシティ推進

違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ

全社員が“仕事も生活も”充実できる環境を整備しています

当社では、社員一人ひとりの“違い”を尊重し、個人が持つ力を100%発揮できる組織づくりに取り組んでいます。

ダイバーシティ推進の阻害要因となりうる“アンコ

ンシャス・バイアス（無意識の偏見）に関する研修を幹部層から担当者まで実施することで、多様な意見に耳を傾け取り入れる風土づくりを進めています。

TOPICS		育児関係制度				
社員の声を取り入れた両立支援制度の拡充		凡例 ■ 2019年4月から拡大				
		制度	妊娠	出産	3歳	小学校入学
全社員を対象に行ったダイバーシティアンケートの声を基に、育児・介護と仕事の両立支援制度等の拡充に取り組んでいます。		直属の上司による両立支援面談（妊娠期・休暇前・復帰前後）	■			
		育児休業	■			
		部分休業（1日最大2時間までの休業）	■			
		子の看護休暇（5日・2人以上は10日/年度）	■			
		介護関係制度				
		制度	介護開始	通算184日	3年	
		介護休業（3回まで分割取得可）	■			
		介護短時間勤務（1日最大2時間までの休業）	■			

グループ会社の業務改善の取り組み

ロボアローの開発

高速道路上での作業の安全性向上に取り組んでいます

当社グループでは、規制作業における矢印板設置を機械化し、作業員の安全性向上と負担軽減に取り組んでいます。通常、矢印板設置は、複数人が車外で作業を行う必要のある危険な重労働ですが、ロボアロー（矢印板自動設置回収車）の開発により、運転手が車内にいながら矢印板を設置・回収することが可能となりました。

そのほか、風による転倒やズレの生じにくい矢印板を開発するなど、引き続き作業の安全性向上と負担軽減に取り組んでいます。



ロボアロー（西日本高速道路メンテナンス九州（株）による開発）

業務研究発表会の開催

グループの技術力向上や業務改善に取り組んでいます

当社グループ専門技術者の育成と技術力向上、業務改善の促進を目的としたNEXCO西日本グループ業務研究発表会を開催しています。発表された内容については、ルール化やマニュアルに取り込む等フォローアップを行い、グループ一体となって技術力向上や業務改善に取り組んでいます。



表彰式の様子

SA・PA店舗スタッフの接客技術の向上

接客コンテストを2019年3月に開催

グループ会社とテナント店舗スタッフ約8千人の頂点に、ショッピング部門は東九州自動車道今川PA（上り線）の緒方彩乃さん（写真左）、レストラン部門は中国自動車道安佐SA（上り線）の梶谷尚子さん（写真右）が輝きました。





環境保全

環境保全

事業活動による環境負荷の低減対策を積極的に推進しています。

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

「環境基本計画」を策定して活動を推進しています

当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5か年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画は、環境方針の柱である「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（アクションプラン）を立て、実績を評価しています。



新名神沿線の淀川では、ヨシの生育環境の保全に取り組んでいます

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成をめざします。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関係する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

(2008年制定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組めます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。



新名神高速道路宝塚北SAの急速充電システム

循環型社会の形成に取り組めます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再利用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組めます。



他の建設工事等で発生した土砂を受け入れ、利用しています

自然と共生する社会の推進に取り組めます

人と生きものが豊かに暮らせる社会をめざし、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。



高松自動車道 府中湖PAの土捨場跡地を利用して整備したピオトープ

中期計画「環境基本計画 2020」に基づくアクションプラン 2018 の取り組み

2016年度から2020年度を対象に「環境基本計画2020」を策定、その計画に基づく年度目標「環境アクションプラン2018」を設定し、グループ一体となって、環境保全・改善に積極的に取り組みました。

低炭素社会の実現

高速道路の自動車交通によって発生する二酸化炭素排出量を削減するための渋滞対策や、事業活動に伴う電気使用量の削減、太陽光発電の導入、及び樹林化などを実施しています。

循環型社会の形成

天然資源の消費を抑制し、事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化]）を推進するとともに、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、遮音壁の新設・改良などを推進しています。

「環境基本計画 2020」及び環境アクションプラン 2018 の実績

※ CSRの重要課題（マテリアリティ）として設定されている項目についてはP45-46に記載。

実行目標計画の取り組み項目	活動内容	指標	単位	アクションプラン2018				
				目標	実績			
低炭素社会の実現	省エネルギーの推進	電気使用量の削減	オフィス活動に要する電気使用量を削減する	電気使用量	kWh/m ²	2015年度実績より3%以上削減する (2015年度 153kWh/m ²)	3.3%増加 (158kWh/m ²)	
		ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を抑制する	ガス使用量 (都市ガス+LPGガス)	m ³ /m ²	2015年度実績より抑制する (2015年度 0.4m ³ /m ²)	13%削減 (0.35m ³ /m ²)	
	二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	盛土のり面等の樹林化整備を推進する	整備面積	ha	94ha	82ha	
循環型社会の形成	技術開発	新技術・新材料の開発	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	—	—	再生アスファルト混合物(市中一般再生骨材)の適用性を検討し、市中一般再生骨材の基準化の可否を判断する	市中一般再生骨材の品質変動が製造混合物の品質に影響を及ぼさない配合率の上限値を設定し、これに基づいた試験施工の手引きを作成した	
		環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する(再資源可能なもの)	再資源化率	%	100%をめざす	100%
			建設発生木材の再資源化を推進する	再資源化率	%	95%以上をめざす	98.5%	
			建設汚泥の再資源化を推進する	再資源化率	%	90%以上をめざす	98.1%	
自然と共生する社会の推進	自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する(建設)	設置延長	km	2.5km	2.7km	
			地域性苗木を設置する	設置本数	本	—	約6,000本	
生活環境の保全	道路交通騒音対策	高機能舗装の敷設を推進する	敷設延長	車線・km	車線・km	100車線・km	109車線・km	



社会貢献

社会貢献

地域の安全や安心、環境保全や活性化支援に取り組んでいます。

社会貢献活動

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、事業以外においては、グループのノウハウを活かすべく事業活動に親和性の高い分野で活動することを基本としています。またボランティアや地域連携イベントへの参画については、社員本人やグループ会社の主体性を尊重しており、「安全」「環境」「地域貢献」の各分野で取り組んでいます。

「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動

地域の高齢者やお子さま向けの交通安全教室を開催しています

高齢者やお子さまが地域で安心して暮らせるよう、地域の警察や交通安全協議会、市町村等と連携し、交通安全教室や講習会を行っています。

シルバー講習会では高速道路での逆走事故防止などを中心に、幼稚園での交通安全教室ではキャラクターや紙芝居を使うなど分かりやすさを心掛けながら、飛び出し事故の危険性などについてお伝えしています。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう各地域で開催していきます。



交通安全教室の様子 (西日本高速道路サービス四国 (株))

関係機関への講習会の実施

ノウハウを活かした交通規制に関する講習会に取り組んでいます

当社グループのパトロール会社では、関係機関に対し交通規制に関する講習会を実施しています。

2018年、関西地区では、近畿2府4県の警察の皆さまや高速道路沿線の消防の皆さまに対し、高速道路での作業や規制時における安全対策等の講義を行いました。

講義においては、規制器材や発炎筒の使用方法、赤旗の振り方などの実技を交えながら行いました。

パトロール会社では、2018年度で88回の交通安全講座を実施しており、今後もこうした業務でのノウハウを活かした取り組みを継続し、地域社会へ貢献していきます。



実技指導の様子 (西日本高速道路パトロール関西 (株))

「環境」への取り組み

各種環境保全活動への参加

環境保全活動へ参加しています

当社グループでは、地域社会への参加の一環として、各種清掃活動へ参加しています。

一例としては、川西市でのクリーンアップ大作戦において、地元の駅周辺での清掃活動を実施し、地域の環境保全のほか、社員の美化意識の向上を図りました。

2018年度の当社グループにおける清掃活動は、約1,700回、8,800人が参加しました。引き続き、環境保全活動を通じて地域社会での活動に参加していきます。



川西市クリーンアップ大作戦への参加 (西日本高速道路ビジネスサポート (株) ほか)

「地域貢献」への取り組み

地域の災害復旧支援

地域の災害復旧ボランティアに参加しました

当社グループでは、2016年の熊本地震により被災した歴史的庭園の復旧活動を、地元の方々や造園専門家と協働で取り組みました。現場では、被災前の資料等を基に、社員の造園の知識や技術を活かしながら、崩落した池泉護岸や合掌式の石橋の復旧作業、堆積した土砂の撤去作業の支援を行いました。

2018年度におけるグループ全体での災害復旧ボランティア参加は、71日、95人にのぼりました。今後もこのような活動を通じて、地域の復旧に取り組んでいきます。



庭園復旧の様子 (西日本高速道路エンジニアリング九州 (株))

学生や地域の子どものための教育支援

校外学習活動協力として職場体験学習を実施しています

当社グループの料金収受会社では、地域との交流を図り、高速道路や料金所への理解を深めていただくために、地元小中学生に対して職場見学会や料金所での職場体験学習を実施しています。

具体的には、発券機横での通行券の手渡しや料金所ブースでの料金収受などを体験してもらっています。実際に高速道路を利用するお客さまから「がんばれ」と励ましの言葉をいただき、子どもたちも真剣に料金収受に取り組んでいました。

今後もこうした校外学習活動への支援を通じ、地域の将来を担う子どもたちの育成に貢献する活動に取り組んでいきます。



料金収受体験学習の様子 (西日本高速道路サービス中国 (株))

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況













当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することをめざしています。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)






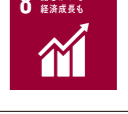


















2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成するべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連ページ
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs	
 お客さま	交通安全の 取り組み	高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。	死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	6.8件/億台km	5.4件/億台km	後日、ウェブサイトに掲載	NEXCO西日本事業エリアの全国路線網		27ページ
			車限令違反車両取締件数(高速道路上で実施した車限令違反車両取締における措置命令件数)	—	538件	—			32ページ
			逆走事案件数※1(交通事故または車両確保に至った逆走事案件数)	70件	78件	—			27ページ
			人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案件数)	780件	983件	—			—
	快適な高速道路空間の提供	高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価))	3.6ポイント	3.6ポイント	後日、ウェブサイトに掲載			28ページ
			年間利用台数	1,011百万台	1,058百万台	—			WEB
			通行止め時間※1(単位営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間)	56時間	76時間	—			32ページ
			本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	573万台・時	561万台・時	—			WEB
	SA・PAのお客さま満足施設への変革	高速道路は基本的なインフラであり、誰もが利用しやすい施設であることが求められます。	Wi-Fiサービスの提供箇所数※2	—	196カ所	—			30ページ
			SA・PAインフォメーションの日本政府観光局(JNTO)の外国人観光案内所認定数(カテゴリー1)※2	—	68カ所	—			30ページ
 社会	社会基盤である 高速道路の整備と 長期保全	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	新規開通路線延長(2車線→4車線化)	—	56.5km	8.3km	 	23ページ	
			スマートIC新規設置箇所数	4カ所	4カ所	4カ所		31ページ	
	災害対応力の強化	管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	快通走行路面率(快適に走行できる舗装路面の車線延長)	98%	98%	後日、ウェブサイトに掲載		WEB	
			南海トラフ地震被害に備えての資機材の新規備蓄箇所	1カ所 累計 236カ所	— 累計 235カ所	3カ所 累計 238カ所		WEB	
	高速道路を通じた 地域活性化	人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	地域物産展実施エリア	—	64カ所	—	 	WEB	
			地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数	—	のべ2,979日	—		30ページ	
			ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	3カ所 (累計73カ所)	—		34ページ	
			地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数	210千件	256千件	—		—	
 投資家・国民の皆さま	透明性の高い経営と 着実な債務の返済	国民の資産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	高速道路機構の債務削減	11ページの「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。			(旧道路関係4公団)		11ページ
			積極的な情報公開	ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	社長定例会見(毎月開催)	—	11回	—	NEXCO西日本
facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式facebook登録者数の増)	登録者数 25,000人	登録者数 25,200人			登録者数 30,000人	WEB			
CSR報告書での企業活動報告	1回	1回			1回	NEXCO西日本グループ	50ページ		

※1 集計期間：2018年1月1日～12月31日
※2 2019年5月末実績

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連ページ	
			管理のポイント・指標	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs		
 公正な取引関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 入札監視委員会(外部有識者) 	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	—	各支社2回	—	NEXCO西日本		36ページ	
			SA・PAのテナント会社との協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) 	お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。	安全・安心にかかる講習等 誤給油防止訓練	—	年3回 年1回	—	飲食物販テナント事業者 元売テナント事業者等
 「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア相談窓口(NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会(NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修(グループ社員) 	中期経営計画に定めた「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修	—	のべ821回	—	NEXCO西日本グループ		37ページ	
			資格取得支援制度の利用者数	—	178名	—	NEXCO西日本		WEB	
			女性管理職者比率	—	9.2%	—	NEXCO西日本グループ		WEB	
 低炭素社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家) 	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境アクションプラン ● 省エネルギー活動 	道路施設の維持管理に要する電気使用量	2015年度実績より4.3%以上削減する(2015年度73.9千kWh/km)	5.5%削減	2015年度実績より5.5%以上削減する(2015年度73.9千kWh/km)	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
			新設料金所等に太陽光発電を設置する	—	—	10kW	NEXCO西日本事業エリア		40ページ	
			次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する	次世代自動車の社会動向を踏まえた、適時・適正なインフラの整備、インフラ技術を検討する	高出力型充電設備に関する動向調査の実施及び管内への適用について検討した	電気自動車用急速充電設備を新たに4基増設する	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA		40ページ	
			事務用品における特定調達物品等の調達率	100%	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	100%	NEXCO西日本		40ページ	
			<ul style="list-style-type: none"> ● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進 	植物系廃棄物(草刈等)の再資源化率	95%以上	96%	95%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
 循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家) 	高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進 	建設発生土の再利用率	80%以上	97%	80%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
			アスファルトコンクリート塊の再資源化率	99%以上	100%	99%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ	
			コンクリート塊の再資源化率	99%以上	100%	99%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ	
			動物侵入防止対策の設置・改良箇所	88カ所	102カ所	92カ所	NEXCO西日本事業エリア		40ページ	
 自然と共生する社会の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶯殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり 	遮音壁の設置(設置延長)	—	—	0.7km	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
			つなぎの森活動	—	—	—	NEXCO西日本管内実施箇所(全7カ所のべ100ha)		WEB	
 「安全」「環境」「地域貢献」の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県) 	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全啓発活動	—	のべ88回	—	NEXCO西日本グループ		41ページ	
			職場周辺や各地域での清掃活動	—	のべ1,700回 8,800人	—	NEXCO西日本グループ		42ページ	
			つなぎの森活動	—	3カ所のべ5.9ha	—	NEXCO西日本管内実施箇所(全7カ所のべ100ha)		WEB	

連結損益計算書

(単位: 億円)

区分	2018年度	2017年度	増減
営業収益			
高速道路事業	10,288	15,679	▲ 5,391
料金収入	7,826	7,643	183
道路資産完成高	2,433	8,002	▲ 5,569
その他	29	34	▲ 4
関連事業	494	533	▲ 38
SA・PA事業	337	330	7
その他の事業	157	202	▲ 45
計	10,783	16,213	▲ 5,429
営業費用			
高速道路事業	10,246	15,691	▲ 5,444
道路資産賃借料	5,603	5,511	92
道路資産完成原価	2,433	8,002	▲ 5,569
管理費用	2,209	2,177	32
関連事業	436	472	▲ 36
SA・PA事業	291	280	10
その他の事業	145	192	▲ 47
計	10,683	16,164	▲ 5,481
営業利益			
高速道路事業	41	▲ 11	53
跨道橋耐震対策事業^{※1}を除く高速道路事業営業利益	(50)	(▲11)	(62)
関連事業(うちSA・PA事業)	58(46)	60(49)	▲ 1(▲ 3)
計	100	48	51
経常利益	129	73	55
当期純利益^{※2}	98	230	▲ 132
跨道橋耐震対策事業及び厚生年金基金代行返上益関係を除く当期純利益^{※3}	(106)	(42)	(64)

※1 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)に対する耐震対策事業であり、目的積立金「跨道橋耐震対策積立金」より充当されることから、参考として当該事業を除いた高速道路事業営業利益を記載しています。
 ※2 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。
 ※3 前期比較のため、跨道橋耐震対策事業及び厚生年金基金代行返上益関係を控除した当期純利益を記載しています。
 ※4 億円未満は切り捨てて表示しています。

主要な経営指標等の推移

回次	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
営業収益 (億円)	10,120	8,841	9,352	16,213	10,783
経常利益 (億円)	79	128	114	73	129
親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)	30	73	159	230	98
純資産額 (億円)	1,614	1,567	1,798	1,990	2,124
総資産額 (億円)	9,517	11,758	14,385	11,706	13,950
1株当たり純資産額 (円)	1,699.19	1,648.61	1,891.16	2,093.11	2,234.61
1株当たり当期純利益金額 (円)	31.81	77.60	167.91	242.37	103.32
自己資本比率 (%)	17.0	13.3	12.5	17.0	15.2
自己資本利益率 (%)	1.9	4.6	9.5	12.2	4.8

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっています。
 ※ 億円未満は切り捨てて表示しています。

高速道路事業トピックス

- 2018年度の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比4.1%増の295万台/日となり、料金収入は、対前期183億円増の7,826億円、その他収入は29億円となり、その結果、道路資産完成高を除く高速道路事業営業収益は対前期178億円増の7,855億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期92億円増の5,603億円となりました。管理費用は、南阪奈道路や堺泉北道路の移管に伴う費用の増加などにより、対前期32億円増の2,209億円となりました。
- 以上のことなどから、高速道路事業の営業利益は、対前期53億円増の41億円となりました。
- 道路資産完成高は、高松自動車道4車線化事業(鳴門IC~高松市境)などの一部完成があった前期からは5,569億円減の2,433億円となりました。なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

関連事業トピックス

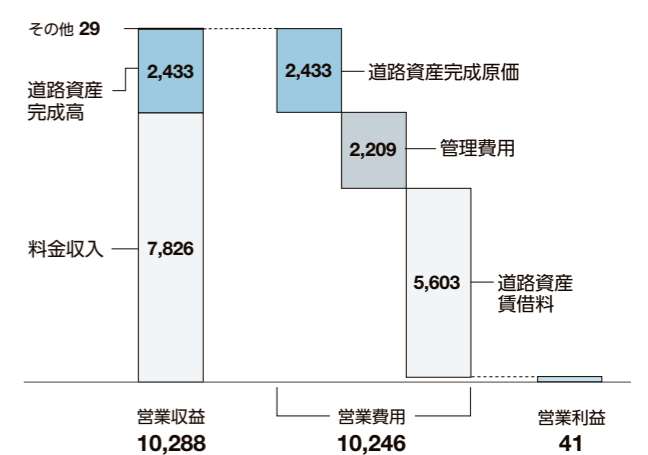
- SA・PA事業は、新名神高速道路 宝塚北SAの新規オープン等による収益の増加があった一方で、店舗リニューアルに伴う建物撤去費用、維持管理・建物点検等による費用の増加により、営業利益は対前期3億円減の46億円となりました。
- 関連事業全体の営業利益は、対前期1億円減の58億円となりました。

全事業の業績

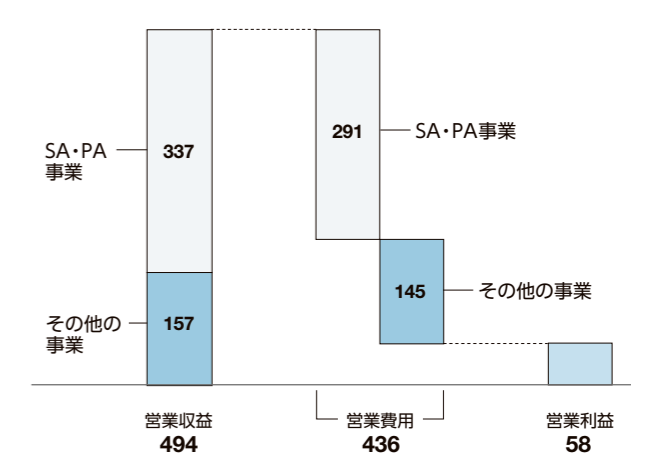
- 当期純利益は、厚生年金基金の代行返上[※]に伴う特別利益(271億円)があった前期からは132億円減の98億円となりました。
- なお、跨道橋耐震対策事業及び厚生年金基金代行返上益関係を除いた当期純利益は、対前期64億円増の106億円となります。

※当社が加入していた建設関係法人厚生年金基金は、厚生年金基金の代行部分について、平成29年5月1日付で厚生労働大臣から過去返上の認可を受けました。

高速道路事業の損益 (単位: 億円)



関連事業の損益 (単位: 億円)



※ 億円未満は切り捨てて表示しています。

NEXCO 西日本グループ 税務ポリシー

NEXCO西日本グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税をおこないます。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。われわれは、この税務ポリシーに基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。

1. 法令遵守

NEXCO西日本グループは、法人税法や消費税法等を常に遵守するとともに税法改正を適時適切に把握して適正な納税義務を果たします。

2. 税務コーポレートガバナンス

NEXCO西日本グループは、社内外の講習等を通じて社員の税務知識向上を目指すとともに、社内規程等に基づく適正な実務遂行により、税務コンプライアンスの充実を図ります。また、法令等に基づかない税務上の判断や節税、脱税はおこないません。

3. 税務当局との関係

NEXCO西日本グループは、税務リスクが懸念される取引について、顧問税理士等を交えた十分な検討をおこなうことでリスク回避に努め、税務当局との良好な関係を維持します。

また、税務当局からの情報開示要請等には適切に対応するとともに、税務的判断に見解の相違が生じた場合は真摯な対応で解消に努めます。



関西学院大学専門職大学院
経営戦略研究科 教授
山本 昭二様

NEXCO西日本グループのコミュニケーションレポート2019を読んでみると一昨年から続いている災害への対応とこれからの成長戦略について幾つかの特徴が明らかになってくる。

平成30年7月の豪雨では広く西日本で災害が発生し、高速道路も大きな被害を受けた。広島呉道路の復旧が鉄道の再開にも連携していることから分かるように、地域の交通の要となる道路の災害対応力の重要性が再確認された。

関西国際空港連絡橋への船舶の衝突は、予想できない事態であり、迅速に対応できたことは同空港の重要性から見ても評価できるものであった。

一方で、平成30年3月の新名神高速道路の高槻～神戸間の開通効果によって中国自動車道の渋滞は確実に減少しており、高速道路のネットワークの改善は地域

の交通サービスに大きな役割を果たしていることも再確認された。同じことは高松自動車道の4車線化においても見られた。

高速道路を利用することによる移動する時間の節約と目的地までの途中での休憩や食事などへのニーズへの対応は、確実な移動のための基礎的なサービスや移動の楽しみの充実を図るための両輪である。従来の時間の節約を中心としたサービスの提供に加えて、SAやPAでの非日常的な体験の提供の可能性を追求することは、高速道路の利用者の多様性を高めて、優れたネットワークを構築することに貢献するはずである。宝塚北SAの開設などNEXCO西日本グループの試みは時宜にかなったものと言えるだろう。

SAやPAでのサービスが良くなることは、高速道路のネットワークの改善にとって必須のものであることは強調しておきたい。SAやPAでのサービス向上は、ドライバーの体調維持や同乗者との優れた経験に繋がり、ドライバーの運転能力向上に寄与し、ひいては走行する自動車の安全性を高めることができる。つまり、移動の質を高めることにより、最終的に優れたネットワークが構築されること、それがNEXCO西日本グループとしての成長戦略の要となるものだからである。

もと、高速道路の安全・安心を届けてまいります。

高速道路の新設や4車線化事業等による高速道路ネットワークの機能強化は、地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献するものと考えています。実際に、新名神高速道路の開通や高松自動車道の4車線化により、渋滞回数が減少し定時性が向上するなど、目に見える効果が現れてきています。引き続き高速道路ネットワークの機能強化に向けて、事業を推進してまいります。

SA・PAにおいては、インバウンドや小さなお子さま連れの旅行等、多種多様なニーズに対応できるサービスを提供し、高速道路のお客さまと地域の皆さまに愛されるSA・PAを目指してまいります。

今後もインフラを管理する企業グループとして環境の変化に対応し、地域と連携した取り組みを通じて高速道路ネットワークの価値を最大化させ、持続的に成長してまいります。

頂戴したご提言を踏まえ、コミュニケーションレポートの更なる充実を活かしていくとともに、NEXCO西日本グループ一体となった事業への取り組みに活用させていただきたいと存じます。

第三者意見をうけて



取締役
専務執行役員
芝村 善治

今年度の第三者意見は、前年度に引き続き、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授の山本昭二様からいただきました。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

今年度は西日本各地で多くの災害が発生し、高速道路も大きな被害を受けましたが、関係機関からの多大なご協力と当社グループの総力を挙げた取り組みにより、早期に高速道路の復旧を成し遂げることができました。引き続き24時間365日、高速道路の機能・サービスを間断なく提供するという当社グループの使命の

当社グループでは、ステークホルダーの皆さまにCSRに対する考え方や取り組みを分かりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「コミュニケーションレポート」を編集・発行しています。

レポートは「全体版」と「要約版」の2つのメディアで発行しており、詳細な取り組みを網羅的に報告する「全体版」では、ウェブサイトに掲載することで、ステークホルダーの皆さまが情報にアクセスしやすいように工夫しています。*また、重要な取り組みを冊子にコンパクトにまとめた「要約版」では、ビジュアルを多用することで、親しみやすく手に取りやすいレポートをめざしました。

*「全体版」については、<https://corp.w-nexco.co.jp/csr/>に掲載されています。

報告対象期間：

2018年4月1日～2019年3月31日
(一部2019年4月1日以降の内容も含まれます)

発行時期：

2019年7月(前回2018年7月、次回予定2020年7月)

参考にしたガイドライン等：

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- GRI (Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」(持続可能な社会の実現に向けて、組織の目標と実績について報告するための国際的ガイドライン)
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)

「コミュニケーションレポート2019」各メディアの情報内容



レポートへの主なご意見と改善のポイント



(「コミュニケーションレポート2018」読者アンケートより)

Q 文章が長くて読みづらく、また専門用語が多くて分かりづらく感じた。

A 文章については簡潔にまとめ、イラストや写真を使って読みやすくなるよう工夫しました。また、専門用語を極力使わないようにするとともに、専門用語を使う際には補足説明を行うことで、読みやすく分かりやすいレポート作成を心がけました。

Q 平成30年7月豪雨の時の高速道路の復旧状況について知りたい。

A 平成30年7月豪雨を含め、2018年度に発生した主な災害と当社グループの取り組みについて、特集ページにて紹介しています。